

# 社会福祉法人 日本ライトハウス

## 平成25年度 事業報告書

|                        |    |
|------------------------|----|
| ○ 事業の概括                | 1  |
| ○ 法人本部                 | 2  |
| A. 法人事業                | 2  |
| B. 募金事業                | 5  |
| ○ 視覚障害リハビリテーションセンター    | 7  |
| A. 日本ライトハウスきらきら        | 8  |
| B. 日本ライトハウスわくわく        | 12 |
| C. 職業訓練部               | 15 |
| D. 盲導犬訓練部              | 17 |
| E. 盲人ホーム部              | 19 |
| F. 居宅支援センター てくてく       | 21 |
| G. 養成部                 | 24 |
| H. 相談室                 | 25 |
| I. リハセンター共通事業          | 27 |
| ○ 情報文化センター             | 29 |
| A. ネットワーク事業            | 29 |
| B. サービス部               | 30 |
| C. 製作部                 | 32 |
| D. 教科用図書製作・供給事業        | 33 |
| E. 多部数複製利用点字データ製作・供給事業 | 34 |
| F. メディア製作センター事業        | 35 |
| G. 厚生労働省委託視覚障害者用図書事業   | 36 |
| H. ボランティア・広報支援事業等      | 37 |
| I. 大阪市委託・早川福祉会館点字図書室   | 38 |

# 平成25年度 事業の概括

平成25年度は、橋本照夫理事長が五代目理事長として就任し、四つの基本理念、すなわち、①社会の公器であることを自覚し、公正・健全・透明な事業活動の推進、②信頼され、信任を得るサービスの充実、③誠実で包容力のある温かいサービスの提供、④時代や環境の変化に対応した組織づくりを事業推進の柱に据え、事業を行った。また、「障害者虐待防止・権利擁護に関する委員会」を再編し、「職員倫理綱領」を策定した。これにともない、新年度は、各事業所における「行動規範」を策定し、弾力的な活力ある事業活動を推進する。

## 1. 法人事業と財政について

平成25年度は、視覚障害リハビリテーションセンターにおいては、障害者自立支援法に代わって4月1日から「障害者総合支援法」が施行され、新事業定着支援事業(激変緩和措置)は廃止となった。廃止による収入の激減に対応するため、きらきらの事業を再編した。

日本ライトハウスきらきらの生活訓練サービス(定員6名)を廃止し、新たに施設入所支援をとまなう生活介護サービスを25年8月より利用者1名で開始した。本年3月時点で利用者6名、4月より8名に増える状況である。

その他の利用率については、自立訓練(機能訓練)は95.0%[昨年度実績92%]、就労移行支援は59.4%[47%]、施設入所支援サービスは43.7%[28%]であった。また、日本ライトハウスわくわくの日中活動サービスの稼働率は、102.1%[95%]に達した。

激変緩和措置廃止による減収分14,600万円については、きらきらの経常経費積立資産取崩し4,960万円と法人本部繰入金2,701万円を充てるなどして工面した。寄附金では、故中嶋ちゑ子氏の遺贈金4,860万円を受領し、その他の赤字補填に充て、併せて、各部署での事務費・事業費の節減により収支の均衡を図った。

海外研修・交流では、平成25年6月30日～7月3日、情報文化センターの林田主任・松本職員・木田職員の3名を姉妹施設提携の韓国・シロアム福祉会に研修派遣した。

また、平成26年3月17日～20日、同じくシロアム福祉会創設者のキム・ソンテ牧師、ムン・ギョンソン秘書、養老院のパク・チュヒ院長が訪日した。18日には、情報文化センターと視覚障害リハビリテーションセンターを見学、19日は、奈良県高取町の養護盲老人ホーム・慈母園を見学した。

情報文化センター西事業所は、中期計画3年間の2年目として、①専門技術を活かした蔵書製作とプライベート製作の推進、②サピエ図書館を柱にしたICTとインターネット利用の支援と普及、③マルチメディアデージー図書と音声解説の普及、④先駆的サービスを維持するためのファンドレイジングの強化を目標とし、予定の成果を上げることができた。

さらに今年度は、東・西事業所が連携して「情報バリアフリー推進事業」に着手し、公共団体や企業に対して点字、録音、電子書籍、音声解説等の公的保障の拡大に取り組んだほか、文部科学省の委託により「音訳教材」の研究事業を実施し、関係者から高い評価を得た。

東事業所は、点字教科書製作事業に関して各教科の原本ページが増え、しかも多数の図版を含むことから点字版の巻数も増加をしているが、「古典文学選古典A」、「新世界史」など新学習指導要領に則った高等部普通科教科書7教科の新版発行と理療科教科書1教科の新版発行を行った。また、三次元切削装置を用いた触察模型製作の研究を行い、デザインのための専用ソフトウェアを開発して、水面波の干渉の様子を表すコマ送り模型(13枚セット)を試作。視覚特別支援学校教員等より高い評価をいただいた。

## 2. 業務実績評価制度について

業務実績評価制度については、平成18年度から取組みを始め、平成20年度から正職員(2級～7級職)全員を対象とし評価を給与に反映させている。管理職は、業務に対してどのような取組みや働きかけが成果となって表れているのかを評価の判断基準とし、一般職については、本人自身の努力の表れを評価の判断基準としている。半年ごとに個別面談を行い、目標や課題の達成度についての振り返りを行い、次期業務への取組みの向上を図っている。今後も積極的に推進し、各部署の活性化に繋げてゆく。

# 法人本部

## A. 法人事業

### 1. 法人事業関係

#### (1) 岩橋武夫賞の授与

アジアにおける盲人福祉・教育・失明防止等に貢献のあった人に対して授与される岩橋武夫賞(賞金10万円、賞状、楯)の2013年受賞者は、該当者がなく、次年に持ち越すこととした。

#### (2) 第21回ライトハウス祭りの開催

日頃お世話になっている地域住民との交流と理解を得る目的で鶴見事業所において開催。11月9日(土)、視覚障害リハビリテーションセンター中心に全施設の利用者・指導員・職員および40名を超える参加ボランティアの方々の協力のもと、クラブ活動の発表や各種模擬店、吹奏楽や腹話術のステージ、ミニバザーや盲導犬体験、法人施設の紹介等を行い、400名を超える周辺地域の方々との温かいふれあいの機会を持つことができた。

## 2. 広報活動

#### (1) インターネットホームページの活用

視覚障害リハビリテーション事業、視覚障害情報提供事業、募金事業、盲導犬事業全般、チャリティコンサートや物品販売、イベント等々の最新情報を常に更新し、発信を続けている。

また法人全体の年度事業報告や会計報告もホームページで開示している。

#### (2) 「フォワード」の発行

法人各施設の事業報告、募金事業報告および新たな援助者に対する依頼を趣旨に年2回(第55・56号)発行し、援助・寄附者を中心に各8,500部を発送した。

#### (3) 法人内機関誌「時報」の発行

職員間の情報伝達および共通の認識を深めるため社内月報「時報」を年12回および新年号を発行し、全職員および外部役員にも配布した。

#### (4) 資料室の整備と担当者の配置

引き続き、法人所有の資料・文献について、貴重な資料の散逸を防ぎ、適正に保管するためのデータベース化を進めるとともに、関係機関から数多く寄せられる提供依頼に対応するため、資料室の整備を進め、所蔵資料等の整理・保管に取り組んでいる。

法人所有の資料・文献の外部提供は、下記のとおり。

・株式会社ミネルヴァ書房編集部に対し、出版物『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』

(平成25年7月発行)の編集に際し、室田保夫氏の執筆箇所に対して、ヘレン・ケラーの画像データを提供したほか、小西律子氏の執筆箇所に対して、ルイ・ブライユの画像データを提供した。

- ・実践女子短期大学日本語コミュニケーション学科准教授西脇智子氏に日本ライトハウス年報データを提供した。
- ・長野朝日放送主催で開催の「まつもと音楽フェスティバル」(平成25年10月6日、まつもと市民芸術館)放映のDVD編集製作のため、「ヘレン・ケラー来日の記録」および「その時歴史は動いた」VHS資料を提供した。
- ・晃洋書房編集部に対し、大阪ソーシャルワーカー協会編『大阪の誇り 福祉の先駆者たち——挑戦の軌跡』(平成25年12月刊行)の編集に際し、岩橋武夫画像データおよびヘレン・ケラー直筆サインを提供し、文章の校正などに協力した。
- ・株式会社ハネルに対し、朝日放送の番組「ビーバップ!ハイヒール」で放映された岩橋武夫、ヘレン・ケラー女史およびブルーバードディナーに対する女史の礼状等の画像データを提供した。
- ・引き続き、武蔵野美術大学非常勤講師(ヤマハ株式会社所属)の佐々木幸弥氏に対して、氏の講演材料として研究課題「音」に関する聾啞関係資料(ヘレン・ケラー関連)を提供した。
- ・4年前より引き続き、米国カリフォルニア州在住のNPO法人ディレクター菊池京子氏に対する研究資料を提供中で、法人の海外資料関係の整理に協力いただいている。氏は、現在、点字毎日掲載の『岩橋武夫を囲む人々』シリーズののち、『岩橋武夫を引き継ぐ人々』を執筆中である。

### 3. 法人業務

#### (1) サービス苦情解決委員会

- ・平成26年2月、盲導犬の元ユーザから、「罵声を浴びせられたり、盲導犬に暴力を振るわれたりするようになり、結局盲導犬が引退せざるを得なくなった。盲導犬訓練所として、相手をきちんと指導されたい」と第三者委員に申し出が寄せられた。
- ・事務局で事実関係を調査し、相手方に連絡をとり、4月1日に面談を約束し、解決は次年度に持越すこととなった。

#### (2) 法人助成事業

- ・引き続き、フランスのルイ・ブライユ記念館に対し、建物維持のため協力金10万円を寄贈した。

### 4. 研修・交流事業の実施

#### (1) 海外研修・交流

- ・平成25年6月30日～7月3日、情報文化センターの林田主任・岡本主任・木田職員の3名を姉妹施設提携の韓国・シロアム福祉会に研修派遣した。
- ・平成26年3月17日～20日、同じくシロアム福祉会創設者のキム・ソンテ牧師、ムン・ギョンソン秘書、養老院のパク・チュヒ院長が訪日した。18日には、情報文化センターと視覚障害リハビリテーションセンターを見学、19日は、奈良県高取町の養護盲老人ホーム・慈母園を見学した。

#### (2) 国内各関係機関への協力

- ・日本盲人福祉委員会への協力：岩橋会長がWBU名誉終身会員として協力した。
- ・日本盲人社会福祉施設協議会等の関係団体に職員が役員その他に就任して、協力

を行った。

### (3) 役職職員研修会

- ・ 役職職員を対象に年2回の研修会を下記のとおり実施した。
- ・ 第1回は、8月31日(土)、四天王寺大学大学院人文社会学研究科教授・大阪市障がい者基幹相談支援センター運営委員長・法人評議員の慎英弘氏を講師に迎え、『自立を混乱させるのは誰か——障害者の「自立」と自立支援』について学んだ。
- ・ 第2回は、平成22年度より、毎年度の秋以降に開催される各部の行事に日程調整のうえ積極的な関わりをもつことで研修に代えることとしている。

### (4) 職員全体会

平成25年4月1日付で法人の代表者が交代したことを受け、リハビリテーション部門と情報部門の2回に分け、新理事長が掲げる法人の新しい理念および経営方針等を職員全員が共有することができるよう、説明と質疑応答を中心とする全体会を開催した。内容は、橋本理事長による法人の理念と経営方針について、關常務理事による昨今の動き・課題と展望、津田視覚障害リハビリテーションセンター所長によるリハセン新事業と今後の事業運営について、盲導犬訓練所・栗木主任の海外研修報告。

リハビリテーションセンター 平成25年5月27日(月) 15:30～18:00

情報文化センター西事業所 平成25年6月17日(月) 14:30～17:00

### (5) 人権啓発研修会

弁護士で権利擁護団体プロテクション・アンド・アドボカシー大阪代表の辻川圭乃氏を講師に迎え、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」をテーマに、法のめざす精神について学び、職員一人ひとりの人権意識の向上をめざす人権啓発研修会をワークショップ形式で年2回実施した。

第1回 平成25年7月26日(金) 18:00～20:30 情報文化センター西事業所

第2回 平成26年1月18日(土) 9:30～12:00 リハビリテーションセンター

## 5. 法人内会議、健康管理等

### (1) 各部門会議

- ・ 理事長・専務理事・常務理事・視覚障害リハビリテーションセンター所長・同副所長・情報文化センター館長・同副館長・法人本部長を法人の経営者と位置付けて運営会議を月2回開催。
- ・ 視覚障害リハビリテーションセンター部門会議(施設長・部長・主幹：月2回)
- ・ 情報部長主幹会議(情報部長・主幹：月1回)
- ・ 各部門役職者会議(部門別：随時)
- ・ 視覚障害リハビリテーションセンター職員全体会(リハセン部門全職員他：随時)
- ・ 情報各事業所会議(情報部門別全職員：随時)
- ・ ケース会議(リハセン各部門：随時)等

必要な各種会議を開催し、法人運営の円滑化を図ることを目的に、情報伝達・周知徹底および必要な検討を行った。

### (2) 新年互礼会および永年勤続表彰の実施

平成26年1月6日、職員新年互礼会を開催し、永年にわたり勤続した職員(勤続年数30年2名、20年4名、10年2名)に対して表彰を実施した。

### (3) 職員の健康・衛生管理

X線撮影による結核予防検査を実施するとともに、35歳未満の該当者19名には法人担当医師による健康診断を実施し、35歳以上の該当者112名に生活習慣病予防検査を

実施した。

## 6. 広報・啓発に関する講師派遣

### (1) 視覚障害者移動介護従業者養成研修

従来どおり、視覚障害者各関係機関からの講師派遣要請に応じ、視覚障害者移動介護従業者(ガイドヘルパー)養成研修課程等に対し、延べ10団体の講習会に延べ63名の講師を派遣した。

### (2) 盲導犬啓発活動

引き続き、大阪市・大阪府の公立小学校を中心に、幼稚園から高等学校の要請に基づき講師を派遣、盲導犬に関する啓発活動を行った。

また、企業や自治体・公的機関の社員や職員を対象に、盲導犬利用者への対応について啓発活動を行ったほか、社会福祉協議会や流通業が主催する「盲導犬ふれあいイベント」の行事等にも講師を派遣し、盲導犬の広報・啓発に努めた。

## B. 募金事業

盲導犬の子犬型募金箱については、引き続き設置協力者を募り、設置先の拡大を図った。

恒例のチャリティコンサートは、第31回を数え、引き続きザ・シンフォニーホールにおいて開催した。曲目は、和波孝禧氏の独奏によるベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲、澤和樹氏の指揮、千里フィルハーモニア・大阪の演奏によるチャイコフスキーの交響曲第五番、ウェーバーの歌劇「オベロン」序曲。

後援会「灯友会」の活動は、17年目を迎えた。25年度は、引き続き盲導犬訓練所の見学会を実施したほか、関係団体のイベントへの協賛をはじめ、作品展示バザール、クリスマスチャリティコンサートなどを開催、引き続き京橋駅前での街頭募金に取り組んだほか、新規会員の獲得や募金箱設置の拡大に努めた。なお、昨年10月、平成8年秋の灯友会発足以来、会長として陣頭指揮されてきた桂知良氏が逝去され、新たに夫人の桂晴子氏が会長に就任された。

## 1. 募金・寄附金

### (1) 援助会員・募金箱

・募金箱は、累計10万円以上23件、累計100万円以上3件の設置先に対し、それぞれ感謝状を贈呈した。

|          |          |        |             |
|----------|----------|--------|-------------|
| < 援助会員 > | 援助会費     | 1,286件 | 18,191,109円 |
|          | (内訳) 個人  | 1,193件 | 15,432,680円 |
|          | 団体       | 93件    | 2,758,429円  |
|          | (うち新規会員) |        | 75件         |
| < 募金箱 >  | 回収件数     | 2,010件 | 18,136,894円 |
|          | (うち新規設置) |        | 87件         |
|          | 10万円以上   |        | 4件          |

### (2) 一般寄附金

- ・日本ライトハウス阪神友の会 300,000円
- ・日本ライトハウス阪神友の会宝塚支部 150,000円
- ・『目の愛護デー』行事：大阪府眼科医会主催 「第40回 目のすべて展」  
日時：平成25年10月13日～14日 会場：ブリーゼプラザ

寄附金： 80,000円      会場募金： 2,060円

・一般寄附金・特定寄附金・事業寄附金

| 一 般 寄 附 金                 | 101件 | 99,523,667円 |
|---------------------------|------|-------------|
| (内訳) 遺贈                   | 3件   | 59,399,675円 |
| 遺志・供養                     | 5件   | 1,380,000円  |
| 個人                        | 28件  | 9,781,948円  |
| 株式現物                      | 1件   | 15,560,000円 |
| 団体                        | 64件  | 13,402,044円 |
| (うち灯友会)                   |      | 4,315,416円  |
| (10万円以上)                  |      | 44件         |
| (うち100万円以上)               |      | 13件         |
| (一般寄附金には、阪神友の会・目のすべて展を含む) |      |             |

| 特 定 寄 附 金         | 331件 | 60,856,664円 |
|-------------------|------|-------------|
| 盲導犬訓練所(盲導犬育成)     | 80件  | 50,251,725円 |
| 盲導犬訓練所(パピー育成基金)   | 176件 | 3,355,000円  |
| 盲導犬訓練所(キャリアチェンジ犬) | 39件  | 3,250,000円  |
| 盲導犬訓練所(子犬スポンサー)   | 13件  | 1,650,000円  |
| 盲導犬訓練所(車輛現物)      | 1件   | 1,242,025円  |
| きらきら(訓練機器整備含む)    | 4件   | 609,927円    |
| てくてく              | 1件   | 17,820円     |
| 情報文化センター西事業所      | 16件  | 280,167円    |
| 早川福祉会館点字図書室       | 1件   | 200,000円    |

| 事 業 寄 附 金         | 3件 | 50,704円 |
|-------------------|----|---------|
| (内訳) オリコJCBロイヤリティ |    | 29,370円 |
| 書き損じハガキ・切手現物      |    | 21,334円 |

## 2. 第31回チャリティコンサート

日 時：平成25年4月20日(日)

出 演：和波孝禧(ヴァイオリン)、澤和樹(指揮)、千里フィルハーモニア・大阪(管弦楽)

入場者：1,142名

会 場：ザ・シンフォニーホール

| 収 入                | 5,195,830円             |
|--------------------|------------------------|
| (内訳) チケット売上        | 1,107枚      3,873,500円 |
| アミティチケット           | 318枚      318,000円     |
| (うち城東ロータリークラブ チケット | 1,000,000円)            |
| 広告収入               | 960,000円               |
| (うち城東ロータリークラブ 広告収入 | 280,000円)              |
| 会場募金・寄附(盲導犬育成)     | 44,330円                |
| 支 出                | 3,920,805円             |
| 収 支 差              | 1,275,025円             |

# 視覚障害リハビリテーションセンター

障害者支援施設日本ライトハウスきらきら(以下、きらきら)と障害福祉サービス事業所日本ライトハウスわくわく(以下、わくわく)のサービスに移行して5年が経過した。本年度は、激変緩和措置がなくなったことによる収入の激減に対応するため、きらきらの事業を再編した。

まず、法律に則って、今まで一体的に運営してきたきらきらとわくわくの事業を分け、それぞれの利用者にも、事業の趣旨に沿ったサービス提供を行う旨を説明しながら、その浸透をはかった。利用者には若干の戸惑いが見られたが、きらきらは、視覚障害による生活の不自由さを軽減するサービスと地域に戻って生活しようとする人の地域移行を支援するサービス、わくわくは、利用者に日中活動の場を提供するサービスと明確に分けることで、それぞれに配置されている職員も利用者を把握しやすくなった。もちろん利用者のニーズは多様であり、場合によっては両方のサービスに跨って利用したいというケースがあるのも事実であるが、原則を堅持しながら柔軟に対応してきた。

また、きらきらでは自立訓練(生活訓練)に替わるサービスとして、施設入所支援をともなう生活介護を開始した。対象は、視覚障害と知的障害や精神障害を併せもつ人である。年度前半は開始準備に費やし、当初6月からの予定が8月にずれ込んだが、生活介護をオープンすることができた。平成26年2月には定員6名をなんとか満たすことができ、さらに利用者増をはかるために定員8名への変更を届け出た。生活介護利用者は、食事・排せつ・入浴など生活面の介助が必要な方々で、これまでは夜勤者や土日の日勤者は1名体制でサービスに当たってきたが、平成26年4月からは2名体制に変更した(夜間は夜勤者1名と宿直者1名)。

激変緩和措置がなくなり、今年度、きらきらは7,661万円と多額の赤字を計上した。きらきらの経常経費積立金から4,960万円を取り崩し、また、本部会計から2,701万円を繰り入れて穴埋めした。平成26年度は生活介護の進展により、なんとかきらきらが事業として成り立つよう目途を立てたい。

さて、平成25年度の事業実施状況を以下に報告する。

まず、複数のサービスを展開しているきらきらであるが、自立訓練(機能訓練)は定員20名に対して95.0%の利用率を記録し、生活介護は前述の通り8月から利用者を受け入れ、年間をならして利用率を算定すると42.5%であった。理療就職や復職を目指す人のための就労移行支援は定員6名に対し、利用率は59.4%であり、施設入所支援は定員30名に対して43.7%であった。生活介護の進展もあって施設入所支援の利用率は改善した。

わくわくでは通所での生活介護サービスを提供しており、登録者は100名を超えたが、利用日数が週1日～2日を希望される方が多く、定員40名に対して利用率は102.1%であった。利用者確保のために、放出駅からの送迎サービスを継続した。

居宅支援センターてくてくでは居宅介護や同行援護での利用者が増加し、ヘルパーの確保など課題は残るが、地域生活を支える事業を遂行することができた。

職業訓練部では16名定員で、年2回の募集で定員を充足することができた。修了者は、17名で、うち4名が就職した。

盲導犬事業は、計画通り年間20頭の盲導犬をユーザに貸与することができた。この20頭には、Guide Dogs Victoriaより輸入した盲導犬3頭も含まれている。

盲人ホームでは利用者4名が施術にあたり、また、きらきらからも施術実習者を受け入れた。

養成部においては、厚労省委託指導者養成課程1年基礎Ⅰは9名、1年基礎Ⅱは2名の受講者を確保でき、事業は順調に推移した。また、2年生は5名確保できた。また、奈良県、和歌山県、堺市、宝塚市の訪問指導は順調にこなすことができた。堺市からの申し出で、堺市の訪問指導の委託は今年度限りとなった。

その他、社会福祉法人清水基金と赤い羽根共同募金・NHK歳末たすけあいから、それぞれ送迎用のニッサンキャラバンを1台ずつ助成していただき、購入することができた。新しいキャラバン2台は、電動式スライドステップが付いており、車内にも持ち手があったて乗り易いと利用者からも好評である。

また、公益信託東京日本橋ライオンズクラブ立川福祉基金よりナースコールシステムの購入に際して助成していただき、各階にまたがる呼び出しに役だっている。また、バイオリニストの川島成道氏から、デスクトップパソコン3台、ノートパソコン1台、ディスプレイ1台、Apple iPad mini 1台の寄贈を受けた。

最後に3月に災害時の福祉避難所開設に関する協定を鶴見区と交わした。協定締結にともない、避難所開設のために必要な備蓄品を一部、大阪市からいただくことができたが、引き続き、物品の整備や訓練の実施などが必要となり、来年度以降も準備を進めてゆく。

## A. 日本ライトハウスきらきら

### 1. 事業の概要

平成25年度の日本ライトハウスきらきら(以下、きらきら)の平均利用者数は、生活介護2.6名、機能訓練19.1名、就労移行支援3.6名であった。

生活介護は、今年度8月から2名の利用者で開始した。入浴は週3回、月・水・金と介助によって行い、また、排せつや食事、着替えの介助など生活面を支えながら、日中活動を行っている。嚥下に問題のある利用者もあり、支援にあたる職員の介助技術の向上をはかりながら職員の増員も図ってきたが、取り組むべき課題は山積している。また、施設生活を送る利用者のために、日中活動や行事などを豊かにしてゆく努力も続けてゆかなければならない。生活介護事業の充実は、当面の大きな課題であると認識している。

自立訓練(機能訓練)は、障害程度区分認定の程度にかかわらず利用できることから、その利用目的は歩行やパソコンなどの訓練を希望される方もいれば、居所のない方や家族状況が変化し、一時的に施設入所を利用したいと望む方もおり、利用のニーズは多岐にわたっている。限られた人数の職員で、地域生活への移行のお手伝いなどの支援も行ってきた。利用期間が限られている中、利用者が抱えている問題を解決するために、地域の社会資源とも協働しながら個別の対応にあたってきた。

ただ、問題点としては、とくに施設入所支援の利用者に対して、生活介護の夜勤が始まったこともあって業務宿直や日直にあたる職員が不足し、職業訓練部や養成部・総務部など、普段、利用者と接することの少ない職員にも業務宿直や日直を命じざるを得ないことが上げられる。そうした職員が宿直や日直に当たる際に、在寮利用者への対応で気をつけなければならない点をいかに漏れなく伝えるかが今後の課題として残されている。

就労移行支援では、理療免許保持者に「盲人ホーム」において施術実習の機会を提供したほか、働きたいと願う利用者にパソコンや歩行などの技術訓練や職場との関係調整等の支援などを行った。今年度は1名が医療系の予備校の原職に復帰し、1名が理療の就労移行A型で就職した。また、短期間の利用の後、1名が事務職として復職することができた。その他、公務員の1名がリハビリ出勤を開始した。

| 主な進路([ ]内は前年度)        | 生活介護   | 自立訓練<br>(機能訓練) | 就労移行<br>支援 |
|-----------------------|--------|----------------|------------|
| 就 職                   | 0 [ 0] | 1 [ 2]         | 1 [ 3]     |
| 原 職 復 帰               | 0 [ 0] | 1 [ 0]         | 3 [ 1]     |
| [法人内]委託職業訓練・職業訓練部     | 0 [ 0] | 9 [ 2]         | 1 [ 0]     |
| 盲 学 校 ・ 理 療 施 設 等 進 学 | 0 [ 0] | 3 [ 0]         | 0 [ 0]     |
| [法人内]福祉サービス事業所・わくわく   | 0 [ 0] | 9 [13]         | 0 [ 0]     |
| 生活介護事業所(施設入所支援をとものう)  | 0 [ 1] | 1 [ 0]         | 0 [ 0]     |
| 他 事 業 所               | 0 [ 1] | 3 [ 0]         | 0 [ 0]     |
| 家 庭 復 帰 ( 地 域 移 行 )   | 0 [ 0] | 4 [ 2]         | 0 [ 0]     |
| そ の 他                 | 0 [ 0] | 2 [ 2]         | 0 [ 0]     |
| 合 計                   | 0 [ 2] | 33 [21]        | 5 [ 4]     |

## 2. 利用状況

### (1) 年間利用状況

|           | 生活介護  | 機能訓練   | 就労移行支援 | 施設入所支援 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|
| 実 利 用 者 数 | 625名  | 4,654名 | 873名   | 4,789名 |
| 開 所 日 数   | 245日  | 245日   | 245日   | 365日   |
| 定 員       | 6名    | 20名    | 6名     | 30名    |
| 利用率       | 42.5% | 95.0%  | 59.4%  | 43.7%  |

### (2) 月別の利用状況([ ]内は前年度)

| 月(営業日)   | 生活介護     |          | 自立訓練<br>(機能訓練) |          | 就労移行<br>支 援 |          | 施設入所<br>支 援 |          |
|----------|----------|----------|----------------|----------|-------------|----------|-------------|----------|
|          | 登録<br>者数 | 1日<br>平均 | 登録<br>者数       | 1日<br>平均 | 登録<br>者数    | 1日<br>平均 | 登録<br>者数    | 1日<br>平均 |
| 4月(21日)  | 0 [ 0]   | 0.0      | 46[30]         | 19.2     | 7[ 7]       | 3.8      | 14[ 6]      | 11.1     |
| 5月(21日)  | 0 [ 0]   | 0.0      | 48[34]         | 20.8     | 7[ 6]       | 4.1      | 14[ 7]      | 10.7     |
| 6月(20日)  | 0 [ 0]   | 0.0      | 45[38]         | 19.5     | 7[ 4]       | 4.1      | 13[ 8]      | 9.6      |
| 7月(22日)  | 0 [ 0]   | 0.0      | 45[38]         | 18.0     | 7[ 4]       | 4.0      | 13[11]      | 9.5      |
| 8月(23日)  | 2 [ 0]   | 1.1      | 44[43]         | 17.5     | 7[ 4]       | 4.1      | 15[11]      | 11.2     |
| 9月(19日)  | 2 [ 0]   | 1.5      | 46[43]         | 22.1     | 7[ 6]       | 3.6      | 15[12]      | 12.8     |
| 10月(22日) | 4 [ 0]   | 3.4      | 43[44]         | 18.8     | 7[ 6]       | 3.1      | 17[12]      | 14.8     |
| 11月(20日) | 5 [ 0]   | 4.5      | 45[44]         | 20.1     | 6[ 6]       | 4.1      | 18[12]      | 16.4     |
| 12月(19日) | 5 [ 0]   | 5.0      | 43[44]         | 18.8     | 8[ 6]       | 3.3      | 18[12]      | 19.1     |
| 1月(19日)  | 5 [ 0]   | 5.0      | 41[46]         | 17.8     | 7[ 6]       | 3.3      | 18[12]      | 15.2     |
| 2月(19日)  | 6 [ 0]   | 5.3      | 38[46]         | 17.4     | 7[ 6]       | 3.1      | 19[12]      | 14.9     |
| 3月(20日)  | 6 [ 0]   | 5.8      | 40[46]         | 19.1     | 3[ 7]       | 2.1      | 19[11]      | 15.3     |
| 年間(245日) | —        | 2.6      | —              | 19.1     | —           | 3.6      | —           | 13.4     |

### 3. 利用者の年齢分布

#### 生活介護

| 25年度 | 総数  | ～19歳 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60以上 |
|------|-----|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 男 性  | 4   | 0    | 0     | 0     | 1     | 0     | 3    |
| 女 性  | 2   | 0    | 0     | 1     | 0     | 0     | 1    |
| 合 計  | 6   | 0    | 0     | 1     | 1     | 0     | 4    |
| 比(%) | 100 | 0.0  | 0.0   | 16.7  | 16.7  | 0.0   | 66.7 |

#### 自立訓練(機能訓練)

| 25年度 | 総数  | ～19歳 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60以上 |
|------|-----|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 男 性  | 41  | 0    | 7     | 8     | 9     | 7     | 10   |
| 女 性  | 22  | 0    | 3     | 2     | 5     | 4     | 8    |
| 合 計  | 63  | 0    | 10    | 10    | 14    | 11    | 18   |
| 比(%) | 100 | 0.0  | 15.9  | 15.9  | 22.2  | 17.5  | 28.6 |
| 24年度 | 66  | 2    | 4     | 11    | 18    | 12    | 19   |

#### 就労移行支援

| 25年度 | 総数  | ～19歳 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60以上 |
|------|-----|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 男 性  | 9   | 0    | 5     | 0     | 3     | 1     | 0    |
| 女 性  | 1   | 0    | 0     | 1     | 0     | 0     | 0    |
| 合 計  | 10  | 0    | 5     | 1     | 3     | 1     | 0    |
| 比(%) | 100 | 0.0  | 50.0  | 10.0  | 30.0  | 10.0  | 0.0  |
| 24年度 | 13  | 0    | 3     | 4     | 4     | 2     | 0    |

### 4. 利用者の障害区分

#### (1) 視覚障害等級別区分

##### 生活介護

| 25年度 | 総数  | 1級    | 2級  | 3級  | 4級  | 5級  | 6級  |
|------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男 性  | 4   | 4     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 女 性  | 2   | 2     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 合 計  | 6   | 6     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 比(%) | 100 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

##### 自立訓練(機能訓練)

| 25年度 | 総数  | 1級   | 2級   | 3級  | 4級  | 5級  | 6級  |
|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 男 性  | 41  | 18   | 17   | 0   | 1   | 4   | 1   |
| 女 性  | 22  | 13   | 8    | 0   | 0   | 0   | 1   |
| 合 計  | 63  | 31   | 25   | 0   | 1   | 4   | 2   |
| 比(%) | 100 | 49.2 | 39.7 | 0.0 | 1.6 | 6.3 | 3.2 |
| 24年度 | 66  | 29   | 29   | 0   | 1   | 5   | 2   |

##### 就労移行支援

| 25年度 | 総数 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 男 性  | 9  | 1  | 5  | 2  | 0  | 1  | 0  |
| 女 性  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |

|      |     |      |      |      |     |      |     |
|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|
| 合 計  | 10  | 2    | 5    | 2    | 0   | 1    | 0   |
| 比(%) | 100 | 20.0 | 50.0 | 20.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 |
| 24年度 | 13  | 2    | 7    | 2    | 1   | 1    | 0   |

施設入所支援＜生活介護・自立訓練(機能訓練)・就労移行支援＞

| 25年度 | 総数  | 1級   | 2級   | 3級  | 4級  | 5級  | 6級  |
|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 男 性  | 19  | 14   | 3    | 1   | 0   | 1   | 0   |
| 女 性  | 6   | 6    | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 合 計  | 25  | 20   | 3    | 1   | 0   | 1   | 0   |
| 比(%) | 100 | 80.0 | 12.0 | 4.0 | 0.0 | 4.0 | 0.0 |
| 24年度 | 16  | 8    | 7    | 0   | 0   | 1   | 0   |

(2) 療育手帳・精神保健福祉手帳所持者(生活介護)

| 25年度 | 総数  | 療育手帳 |     |      |     | 精神保健<br>福祉手帳 |
|------|-----|------|-----|------|-----|--------------|
|      |     | A    | B1  | B2   | 未所持 |              |
| 男 性  | 4   | 2    | 0   | 1    | 0   | 1            |
| 女 性  | 2   | 1    | 0   | 1    | 0   | 0            |
| 合 計  | 6   | 3    | 0   | 2    | 0   | 1            |
| 比(%) | 100 | 50.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 16.7         |

(3) 障害程度認定別区分

生活介護

| 25年度 | 総数  | 区分6  | 区分5  | 区分4  | 区分3 |
|------|-----|------|------|------|-----|
| 男 性  | 4   | 1    | 1    | 2    | 0   |
| 女 性  | 2   | 1    | 0    | 1    | 0   |
| 合 計  | 6   | 2    | 1    | 3    | 0   |
| 比(%) | 100 | 33.3 | 16.7 | 50.0 | 0.0 |

自立訓練(機能訓練)、就労移行支援(施設入所支援のみ)

| 25年度 | 総数  | 区分6 | 区分5 | 区分4  | 区分3  | 区分2  | 区分1<br>非該当 |
|------|-----|-----|-----|------|------|------|------------|
| 男 性  | 15  | 0   | 0   | 4    | 1    | 4    | 6          |
| 女 性  | 4   | 0   | 0   | 0    | 1    | 1    | 2          |
| 合 計  | 19  | 0   | 0   | 4    | 2    | 5    | 8          |
| 比(%) | 100 | 0.0 | 0.0 | 21.1 | 10.5 | 26.3 | 42.1       |
| 24年度 | 16  | 0   | 0   | 1    | 5    | 4    | 6          |

5. 出身地域別区分([ ]内は前年度) ※ 施設入所支援は、再掲の数値。

| 25年度        | 合計      | 大阪市     | 大阪府     | 近畿      | その他    |
|-------------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 生 活 介 護     | 6 [ 0]  | 1 [ 0]  | 3 [ 0]  | 1 [ 0]  | 1 [ 0] |
| 自立訓練(機能訓練)  | 63 [66] | 19 [17] | 18 [32] | 18 [12] | 8 [ 5] |
| 就 労 移 行 支 援 | 10 [13] | 1 [ 3]  | 2 [ 3]  | 7 [ 6]  | 0 [ 1] |
| 施 設 入 所 支 援 | 25 [16] | 3 [ 2]  | 7 [ 4]  | 7 [ 4]  | 8 [ 6] |

近畿：大阪府・市を除く近畿各県(兵庫、奈良、和歌山)

その他の内訳：東京、静岡、三重、広島、香川、徳島、鹿児島

## 6. 職員の研修

鶴見区社会福祉施設連絡会、大阪市障害児・者施設連絡協議会学習会、民間社会福祉施設協議会主催各種研修(感染症予防研修会、食中毒予防、人権講座)、鶴見区内各種研修(虐待防止、認知症理解、防災等)、救命・防災研修、全国盲重複研究協議会、その他法人内の医療学習、人権研修、職員全体研修。

## B. 日本ライトハウスわくわく

新体系に移行して5年を経過した日本ライトハウスわくわく(以下、わくわく)は、日中活動のみの生活介護事業を提供する事業所である。25年度当初の利用者数は105名、年度末は108名であった。月により若干の増減はあったものの100名以上の登録者は常に保っていた。利用者数の推移として、増はきらきらからの変更7名、わくわくの直接利用が1名。終了者は5名であるが、進路として家庭復帰が2名、治療院への就職1名、神戸視力障害センター1名、体調不良1名の内訳であった。

利用者の年齢層も下は20歳代から上は70歳代まで幅が広く、多様なニーズが求められる。その中で限られた職員数でケースワーク、グループワーク、生産活動の3本の柱を中心にプログラムを提供した。また新たなプログラムや特別プログラム、クラブ活動なども試み、手応えも感じる事ができた。

曜日については火曜日、木曜日の順で利用が多かった。これは昨年と同様であり、プログラムに影響されて利用日が決まるのではなくそれぞれの生活スタイルに合わせて利用日を決定している利用者が多いと予想される。

### 1. 生産活動([ ]内は前年度)

生産活動に係わった利用者は延べ39名[33名]で、平均工賃は5,211円[5,473円]、時給単価は140円[144円]であった。

### 2. 送迎サービス

4月1日から営業日にJR放出駅から事業所まで、朝夕の送迎を行い、延べ3,811名[3,713名]が利用した。とくに今年度は、JR職員に対して手引きの講習の実施、送迎サービスの日程を事前に連絡するなど協力関係を強化した。そうした努力により単独歩行に不安のある利用者には駅員の手引きを依頼すると改札口から送迎バスの乗場まで手引きを実施して頂けるようになった。

### 3. 月別の利用状況([ ]内は前年度)

営業日は昨年と比較して5日少なかったものの、他の数字は昨年よりもすべて増となった。とくに稼働率は年間を通して100%を下回ったのは3回だけであった。

| 月(営業日数) | 登録数       | 延べ<br>利用者数 | 平均<br>利用者数  | 稼働率(%)        |
|---------|-----------|------------|-------------|---------------|
| 4月(21日) | 105 [ 98] | 900 [ 801] | 42.9 [38.1] | 107.3 [ 95.3] |
| 5月(21日) | 105 [ 97] | 886 [ 787] | 42.5 [35.8] | 106.3 [ 89.5] |
| 6月(20日) | 106 [ 95] | 853 [ 771] | 42.7 [36.7] | 106.8 [ 91.8] |
| 7月(22日) | 105 [ 95] | 937 [ 780] | 42.6 [37.1] | 106.5 [ 92.8] |

|          |              |                |             |               |
|----------|--------------|----------------|-------------|---------------|
| 8月(23日)  | 104 [ 95]    | 767 [ 763]     | 34.9 [34.7] | 87.3 [ 86.8]  |
| 9月(19日)  | 104 [ 96]    | 754 [ 744]     | 39.7 [37.2] | 99.3 [ 93.0]  |
| 10月(22日) | 104 [ 99]    | 877 [ 885]     | 39.9 [40.2] | 99.8 [100.5]  |
| 11月(20日) | 101 [100]    | 855 [ 811]     | 42.8 [38.6] | 107.0 [ 96.5] |
| 12月(19日) | 101 [101]    | 776 [ 757]     | 40.8 [37.9] | 102.0 [ 94.8] |
| 1月(19日)  | 107 [103]    | 816 [ 734]     | 43.0 [38.6] | 107.5 [ 96.5] |
| 2月(19日)  | 106 [103]    | 768 [ 762]     | 40.4 [38.1] | 101.0 [ 95.3] |
| 3月(20日)  | 107 [105]    | 818 [ 816]     | 43.1 [40.8] | 107.5 [102.0] |
| 年間(245日) | 104.6 [98.9] | 10,007 [9,411] | 41.3 [37.8] | 103.3 [ 94.5] |

#### 4. 利用者の年齢分布

性別・年齢別区分

| 25年度 | 総数  | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～69 | 70以上 | 平均   |
|------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 男 性  | 63  | 2     | 10    | 10    | 10    | 22    | 9    | 55.3 |
| 女 性  | 51  | 5     | 4     | 7     | 8     | 17    | 10   | 56.0 |
| 合 計  | 114 | 7     | 14    | 17    | 18    | 39    | 19   | 55.7 |
| 比(%) | 100 | 6.1   | 12.3  | 14.9  | 15.8  | 34.2  | 16.7 | —    |
| 24年度 | 111 | 6     | 14    | 16    | 20    | 41    | 14   | 55.0 |

#### 5. 利用者の障害程度区分と身体障害者手帳等級

##### (1) 障害程度区分

| 25年度 | 総数  | 区分6 | 区分5 | 区分4  | 区分3  | 区分2  | 区分1 | 平均   |
|------|-----|-----|-----|------|------|------|-----|------|
| 男 性  | 63  | 1   | 5   | 9    | 34   | 14   | 0   | 3.08 |
| 女 性  | 51  | 1   | 1   | 7    | 26   | 16   | 0   | 2.98 |
| 合 計  | 114 | 2   | 6   | 16   | 60   | 30   | 0   | 3.04 |
| 比(%) | 100 | 1.8 | 5.3 | 14.0 | 52.6 | 26.3 | 0.0 | —    |
| 24年度 | 111 | 2   | 6   | 19   | 54   | 30   | 0   | 3.06 |

##### (2) 身体障害者手帳等級

| 25年度 | 総数  | 1級   | 2級   | 3級  | 4級  | 5級  | 6級  |
|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 男 性  | 63  | 33   | 26   | 0   | 2   | 2   | 0   |
| 女 性  | 51  | 27   | 20   | 2   | 1   | 0   | 1   |
| 合 計  | 114 | 60   | 46   | 2   | 3   | 2   | 1   |
| 比(%) | 100 | 52.6 | 40.4 | 1.8 | 2.6 | 1.8 | 0.9 |
| 24年度 | 111 | 58   | 46   | 2   | 3   | 2   | 0   |

利用者の平均年齢は55.7歳。男女の差はなく、昨年と比較しても大きな変化はなかった。障害程度区分は3の判定が一番多く次いで2の判定となった。しかし、身体障害者

手帳等級は1、2級で90%以上を占め、改めて障害程度区分と手帳の判定基準の違いを示すものとなった。

## 6. 視覚障害の原因と他の障害との合併状態

視覚障害原因別区分([ ]内は前年度)

|             | 眼 疾             | 人数        | 比(%)        |
|-------------|-----------------|-----------|-------------|
| 眼 球 全 体     | 緑 内 障           | 21 [ 21]  | 18.4 [18.9] |
|             | 小 眼 球           | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
|             | 視 神 経 欠 損       | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
|             | 屈 折 異 常         | 2 [ 2]    | 1.8 [ 1.8]  |
|             | 眼 球 ろ う         | 1 [ 2]    | 0.9 [ 1.8]  |
| 角 膜 疾 患     | 角 膜 白 斑         | 2 [ 2]    | 1.8 [ 1.8]  |
|             | そ の 他 の 角 膜 疾 患 | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
| 葡 萄 膜 疾 患   | 葡 萄 膜 炎         | 7 [ 7]    | 6.1 [ 6.3]  |
| 網 脈 絡 膜 疾 患 | 網 膜 色 素 変 性 症   | 37 [ 37]  | 32.5 [33.3] |
|             | 網 脈 絡 膜 萎 縮 症   | 6 [ 5]    | 5.3 [ 4.5]  |
|             | 黄 斑 変 性         | 2 [ 1]    | 1.8 [ 0.9]  |
|             | 未 熟 児 網 膜 症     | 4 [ 5]    | 3.5 [ 4.5]  |
|             | 網 膜 芽 細 胞 腫     | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
|             | 網 膜 剥 離         | 3 [ 3]    | 2.6 [ 2.7]  |
|             | 糖 尿 病 性 網 膜 症   | 9 [ 8]    | 7.9 [ 7.2]  |
|             | その他の網脈絡膜疾患      | 3 [ 2]    | 2.6 [ 1.8]  |
| 視 束 視 路 疾 患 | 視 神 経 萎 縮       | 11 [ 10]  | 9.6 [ 9.0]  |
|             | 視 中 枢 障 害       | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
| そ の 他       | 弱 視             | 0 [ 0]    | 0.0 [ 0.0]  |
|             | 他               | 1 [ 1]    | 0.9 [ 0.9]  |
|             | 合 計             | 114 [111] | 100.0       |

視覚障害の原因としては網膜色素変性症、緑内障、視神経萎縮の順で高い。

視力以外の障害としては療育手帳、聴覚障害、内部障害、肢体不自由、てんかん、リウマチ、高次脳機能障害、鬱病などがある。

傾向として精神障害の重複利用者の支援が大きな社会的ニーズになると思われる。

## 7. 出身地域別区分([ ]内は前年度)

|     | 県名  | 人数       | 地域集計     |
|-----|-----|----------|----------|
| 大阪府 | 大阪市 | 56 [ 58] | 56 [ 58] |
|     | 大阪府 | 47 [ 43] | 47 [ 43] |
| 近畿  | 三重県 | 0 [ 0]   | 11 [ 10] |
|     | 滋賀県 | 0 [ 0]   |          |
|     | 京都府 | 1 [ 1]   |          |
|     | 兵庫県 | 8 [ 7]   |          |
|     | 奈良県 | 2 [ 2]   |          |

|  |      |           |           |
|--|------|-----------|-----------|
|  | 和歌山県 | 0 [ 0]    |           |
|  | 合 計  | 114 [111] | 114 [111] |

通所のため、大阪市・大阪府から通われる利用者が多い。次いで兵庫県、奈良県、京都府の順となった。

## 8. 職員の研修

大阪市障害児・者施設連絡協議会学習会、民間社会福祉施設協議会主催各種研修(感染症予防研修会、食中毒予防、社会福祉基礎講座)、法務省関係研修会、養成講座、相談支援事業者現任研修、広報誌研修会、消防訓練及び普通救命講習、その他法人内の医療学習、視覚障害基礎講習、人権研修、職員全体研修、役職研修など。

## C. 職業訓練部

### 1. 事業の概要

#### (1) 定員の充足状況

平成25年度は、4月入校生8名、10月入校生8名と定員を充足することができた。前年度からの継続生は、就職による中途退校が2名出たため、9月修了時点では、6名の在籍となった。また今年度は、就職による中途退校者1名が出たが、その他の訓練生は、修了時まで在籍したため、月平均在籍者数は15.3名となった。

#### (2) 就職者の状況

職業訓練に在籍した者は、24名であったが、就職や進路変更による中途退校も含め、17名が修了した。修了者17名のうち、就職した方は4名で、求職中の方が10名、視覚支援学校専攻科への進学が3名である。家庭の事情等で就職活動への取り組み時期が遅くなる傾向が強く、訓練期間終盤になってあせり出す訓練生が多かった。その影響か、就職できた人数が少なかった。また、資格試験関連では日商簿記の3級、2級、それに大商ビジネス会計検定3級、2級、秘書検定3級、2級など、合格する訓練生が多く、資格試験に対する訓練効果は高かったが、なかなか就労に結びつかなかった。

ビジネス科電話交換コースでは、4名が修了し、うち1名は民間企業、1名は病院内マッサージ師として就職した。

ビジネス科会計・経営コースでは、4名が修了したが、就職者はなかった。

情報処理科パソコン活用コースでは、8名が修了し、うち2名が民間企業に就職した。

就職先は、職業訓練全体で民間企業3名、病院1名である。

#### (3) 就労支援への取組みの強化

今年度も就労支援員を配置し、利用者の求人活動の支援や情報収集、職業安定所など関係機関との調整・連絡などに努めた。昨年度、就職先開拓の一環として、特例子会社に事務職の実習として受け入れを依頼していたが、本年度は実習時期等予定が調整できず、実習期間が26年5月頃予定にずれ込んでしまった。

また、昨年と同じく、修了生の勤務先で仕事ぶりを身近で見学する機会が与えられ、訓練生2名が参加した。この見学では、パソコンの音声を聞きながら仕事について説明を受けることができ、参加者には貴重な体験となった。

#### (4) 短期委託訓練

今年度は10月に開始された短期委託訓練に1名が受講した。2か月間という短期のパソコン訓練では、初心者が就職に必要なとされる技術力を身につけるのが難しいが、昨年度と同様、受講者が特別委託訓練に移行され、訓練生確保につながった。

#### (5) 就労移行支援事業との協力

復職をめざしたり、働き続けたりするために就労移行支援事業を利用された方4名に対するパソコン訓練や企業への働きかけなどにおいて、本年も職業訓練部が協力した。うち1名が復職され、1名も新年度早々に復職予定である。

#### (6) 就職した修了者の体験を聞く会の実施

今年度も土曜日訓練を2回実施し、働いている視覚障害者の体験を聞く会を開催した。それぞれ3名ずつの働いている修了生が来所してくださり、求職活動や職場での体験についてお話を聞くことができた。

### 2. 利用者数(〔 〕内は前年度)

| 科・コース              |          | 定員数 | 月       | 4月      |        | 4<br>5月 | 5<br>月 | 6<br>7月 | 9月     |         |        | 10<br>月 | 10<br>11月 | 11<br>月 | 12<br>1月 | 3月     |         |        |
|--------------------|----------|-----|---------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|-----------|---------|----------|--------|---------|--------|
|                    |          |     | 平均<br>数 | 前<br>年度 | 継<br>続 | 入<br>校者 | 中<br>退 |         | 中<br>退 | 修<br>了者 | 継<br>続 | 入<br>校者 |           | 中<br>退  |          | 中<br>退 | 修<br>了者 | 継<br>続 |
| ビジネス科              | 電話交換コース  | 4   | [2.5]   | 2       | 2      | 4       | 1      | 3       |        | 1       | 2      | 2       | 4         | 1       | 3        |        | 1       | 2      |
|                    | 会計・経営コース | 4   | [3.5]   | 2       | 2      | 4       |        | 4       |        | 2       | 2      | 2       | 4         |         | 4        |        | 2       | 2      |
| 情報処理科<br>パソコン活用コース |          | 8   | [6.6]   | 4       | 4      | 8       |        | 8       | 1      | 3       | 4      | 4       | 8         |         | 8        | 1      | 4       | 3      |
| 計                  |          | 16  | [12.6]  | 8       | 8      | 16      | 1      | 15      | 1      | 6       | 8      | 8       | 16        | 1       | 15       | 1      | 7       | 7      |

### 3. 就職の状況(〔 〕内は前年度)

| 科                  |          | 修了・退校者 |         | 就職者    | 求職中     | 進路変更   |
|--------------------|----------|--------|---------|--------|---------|--------|
| ビジネス科              | 電話交換コース  | 修了者    | 2 [ 1]  | 0 [ 0] | 1 [ 0]  | 1 [ 1] |
|                    |          | 中途退校   | 2 [ 1]  | 2 [ 0] |         | 0 [ 1] |
|                    | 会計・経営コース | 修了者    | 4 [ 3]  | 0 [ 1] | 4 [ 1]  | 0 [ 1] |
|                    |          | 中途退校   | 0 [ 0]  |        |         |        |
| 情報処理科<br>パソコン活用コース |          | 修了者    | 7 [ 4]  | 1 [ 3] | 5 [ 1]  | 1 [ 0] |
|                    |          | 中途退校   | 2 [ 3]  | 1 [ 3] |         | 1 [ 0] |
| 合 計                |          |        | 17 [12] | 4 [ 7] | 10 [ 2] | 3 [ 3] |

### 4. 利用者の状況

#### (1) 性別・年齢別区分

| 25年度 | 総数  | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 平均   |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 男 性  | 16名 | 0   | 4   | 5   | 3   | 3   | 1   | 39.5 |

|      |       |     |      |      |      |      |     |      |
|------|-------|-----|------|------|------|------|-----|------|
| 女 性  | 8名    | 0   | 1    | 2    | 4    | 1    | 0   | 41.5 |
| 合計   | 24名   | 0   | 5    | 7    | 7    | 4    | 1   | 40.5 |
| 比(%) | 100.0 | 0.0 | 20.8 | 29.2 | 29.2 | 16.7 | 4.2 | —    |
| 24年度 | 20名   | 1   | 3    | 6    | 4    | 5    | 1   | 43.2 |

(2) 視覚障害等級別区分

| 25年度  | 総数    | 1級   | 2級   | 3級   | 4級  | 5級   | 6級  |
|-------|-------|------|------|------|-----|------|-----|
| ビジネス科 | 12名   | 3    | 3    | 0    | 0   | 5    | 1   |
| 情報処理科 | 12名   | 3    | 3    | 4    | 0   | 2    | 0   |
| 合 計   | 24名   | 6    | 6    | 4    | 0   | 7    | 1   |
| 比(%)  | 100.0 | 25.0 | 25.0 | 16.7 | 0.0 | 29.2 | 4.2 |
| 24年度  | 20名   | 8    | 5    | 2    | 2   | 1    | 2   |

(3) 受講指示職安の地域

| 25年度  | 総数  | 市    | 府    | 近畿   |
|-------|-----|------|------|------|
| ビジネス科 | 12名 | 3    | 7    | 2    |
| 情報処理科 | 12名 | 8    | 2    | 2    |
| 合計    | 24名 | 11   | 9    | 4    |
| 比(%)  | 100 | 45.8 | 37.5 | 16.7 |
| 24年度  | 20名 | 10   | 5    | 5    |

市：大阪市、府：大阪府、近畿：大阪府・市を除く近畿各府県

## D. 盲導犬訓練部 盲導犬訓練所

### 1. 事業の概要

育成計画に沿って平成25年度は、20頭の盲導犬を作出した(内、タンDEM 2頭)。

#### (1) 繁殖計画とパピーウォーキング

種雄10頭、種雌28頭の計38頭の繁殖犬を確保し、世代交代を進めながら繁殖計画を推進している。前年同様繁殖計画にもとづき13回の交配を実施した。その結果10回出産し、65頭の子犬を得て、子犬育成奉仕者(パピーウォーカー)へ委託した。繁殖担当はAGBN参加で技術を得て、人工授精を1度行い、成功することができた。新しい技術や知識を意欲的に取り入れたい。

訓練士育成にともない、犬舎にとどめる訓練犬頭数を制限するため、パピーウォーカー宅へ1歳を過ぎても委託を継続することがあった。パピーウォーカー担当の負担があったが、滞りなく業務を進められた。

#### (2) 候補犬の評価と訓練

これまでと同様、パピーウォーキング終了時に1週間ほどかけて評価を行い、訓練を進めている。5月末より昨年までパピーウォーキング担当だった職員1名を訓練部に配属し、引き続き訓練担当への教育を行っている最中である。しかし、慢性的な訓練士、指導員不足が続いており、中堅訓練士、指導員に負担が大きい状態が続くことは回避できない。その中でも、訓練士、指導員の技術と質の向上が必要である。残念ながら一昨年のように訓練士をGuide Dogs Victoriaに6か月間派遣することは、業務を遂行するに当たり、無理がある。そのため、Victoriaからは訓練済み犬3頭を輸

入し、貸与事業を滞りなく進めることができた。

### (3) 共同訓練の形態と利用者のフォロー

共同訓練は、代替利用者22名(3週間または2週間)に対して、入所による訓練を実施した(頭数は20頭であるが、2組のタンデム利用を含むため)。共同訓練については、70歳を超える訓練生が増えており(今年度は6名、内1名は80歳)、高齢化が進んでいる。訓練生22名の内、上記を含む15名が60歳以上である。しかし、利用者も、介護や自営への影響を危惧して入所の短期化を求める声が高く、限られた人員での対処が依然として厳しい。また、他訓練所との比較で現地訓練を求める声が高く、今後の課題である。

また、前年度同様、130回を超えるフォローアップを実施した。しかし、これでもまだ利用者のフォローアップ充実には遠く、これも今後の課題である。

## 2. 盲導犬貸与状況(〔 〕内は前年度)

合計：ユーザ数 22名 20頭 [21名 18頭]

| 番号 | 委 託 先            | 頭数 | 犬 名  | 使用者 | 時 期 |
|----|------------------|----|------|-----|-----|
| 1  | 広島県(虹の会)         | 1  | メグ   | 女   | 4月  |
| 2  | 岡山県(盲導犬を育てる会)    | 1  | ジョイ  | 男   | 4月  |
| 3  | 兵庫県(中山視覚障害者福祉財団) | 1  | カリム  | 男   | 5月  |
| 4  | 滋賀県(盲導犬を育てる会)    | 1  | ハーツ  | 女   | 5月  |
| 5  | 兵庫県(西日本高速道路)     | 1  | ハンソン | 男女  | 5月  |
| 6  | 大阪府(グリーンフロント堺1)  | 1  | ボナール | 男   | 6月  |
| 7  | 香川県              | 1  | イビサ  | 女   | 6月  |
| 8  | 兵庫県(わこ盲導犬プロジェクト) | 1  | イバン  | 男   | 7月  |
| 9  | 愛媛県(全国盲導犬施設連合会)  | 1  | ハルド  | 男   | 7月  |
| 10 | 兵庫県              | 1  | アイビス | 男   | 8月  |
| 11 | 鳥取県              | 1  | ニュース | 女   | 8月  |
| 12 | 長野県              | 1  | オルト  | 女   | 9月  |
| 13 | 鳥取県              | 1  | ディーノ | 男女  | 9月  |
| 14 | 大阪府              | 1  | ノッポ  | 女   | 10月 |
| 15 | 大阪府              | 1  | ペルル  | 女   | 10月 |
| 16 | 大阪府              | 1  | ピース  | 男   | 11月 |
| 17 | 大阪府(グリーンフロント堺2)  | 1  | エミール | 男   | 12月 |
| 18 | 奈良県              | 1  | プロフ  | 男   | 2月  |
| 19 | 鳥取県(自動車販売連合会)    | 1  | クク   | 男   | 2月  |
| 20 | 山形県(参天製薬)        | 1  | パドマ  | 男   | 2月  |

#### <自治体委託 9頭>

大阪府3、兵庫県1、奈良県1、鳥取県2、香川県1、長野県1

#### <その他 11頭>

虹の会、盲導犬を育てる会2、中山視覚障害者福祉財団、  
西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部、グリーンフロント堺2、  
わこ盲導犬プロジェクト、全国盲導犬施設連合会、日本自動車販売協会連合会、  
参天製薬株式会社

### 3. 繁殖・育成の状況〔 〕内は前年度)

交配13回、うち出産10回、65頭の子犬を得た。

| 父親       | 母親       | 出産頭数     | 出産日       | 胎名  |
|----------|----------|----------|-----------|-----|
| クオレ      | オキシシー    | 8 頭      | 25年 4月10日 | I 胎 |
| イヴ       | フィーリア    | 5 頭      | 25年 5月24日 | J 胎 |
| ケビン      | ファズ      | 8 頭      | 25年 6月20日 | K 胎 |
| イヴ       | モア       | 5 頭      | 25年 8月10日 | L 胎 |
| ケビン      | ネイロ      | 5 頭      | 25年 8月18日 | M 胎 |
| イヴ(人工授精) | オペラ      | 9 頭      | 25年11月27日 | O 胎 |
| イヴ       | タアニー     | 6 頭      | 25年12月 6日 | P 胎 |
| ケビン      | ニーズ      | 9 頭      | 25年12月17日 | Q 胎 |
| クオレ      | ウィットネス   | 5 頭      | 26年 3月 3日 | R 胎 |
| マール      | キンダー     | 5 頭      | 26年 3月24日 | S 胎 |
|          | 10回[12回] | 65頭[61頭] |           |     |

### 4. ボランティアの活動状況〔 〕内は前年度)

パピーウォーカー登録数 106名〔 88名〕(内、現在実働数 64名[60名])  
 繁殖犬ボランティア 40名〔 38名〕  
 犬舎ボランティア 6名〔 8名〕  
 縫製ボランティア 12名〔 12名〕

### 5. イベント・啓発事業など

例年、盲導犬に関するイベントや講演依頼が殺到しており、業務として無視できない状況にある。学校関係はもとより、後援団体や支援者からの依頼、連合会からの依頼、自治体からの依頼などが非常に多い。訓練士や指導員等が分担して対応しているものの、専任職員がおらず、学校関係などは依頼を断らざるをえないことが多い。子供たちへの啓発は、視覚障害の理解に繋がり、重要な任務ではあるが、すべてには対応できない。かといって、視覚障害や盲導犬など幅広い知識と経験が必要な業務でもあることから、人員の育成がままならない状態であり、今後の課題でもある。

支援者の関係で、盲導犬の応援ソングも作成したが、著作権の関係で活用が限られているのが現状である(現在はホームページ上での発表に限られている)。

共同訓練の現状でも述べたが、若年層の新規利用者を確保できておらず、啓発が必要と思われるが、慢性的な人員不足により、打開策は見つかっていない。

25年度イベント対応回数

来所見学： 23件(訓練所見学会オープンデー 6 回を含む)

講師派遣：205件(OC A講師は含まず)

## E. 盲人ホーム部 大阪盲人ホーム

### 1. 事業の概要

盲人ホームは、あんま・はり・マッサージ・指圧の免許所持者が、指導員の下で実際の施術を行うことによって経済自立に結びつくよう設置されている。地域住民には「はなてん治療院」という名前で親しんでいただき、利用者はあんま・はり免許を持った専門家として、地域福祉や健康維持の自ら担い手となれるよう、自信と喜びをもって働くことがで

きるよう取り組んでいる。

平成25年度は、年度当初に1名が職業訓練校に移行したが、新たに1名のメンバーが加わり、4名で施術を担当した。しかしながら、1名の方は65歳を越え、体調や通勤負担等の利用が不安定で、全く施術が行えない月もあった。新規メンバー1名は、当初は月1名のお客様を施術した程度であったが、次第に力をつけ、年度末には17名を施術するまでになった。

盲人ホームは実習指導の場としての役割を持っており、「日本ライトハウスきらきら」の就労移行支援サービスの実習場所として盲人ホームを位置づけている。平成25年度については、男性3名、女性1名の実習生を受け入れ、そのうち男性1名と女性1名が就職、男性1名が自宅開業を再開した。

## 2. 利用者数([ ]内は前年度)

|      |         |    |      |
|------|---------|----|------|
| 24年度 | 継 続 者 数 | 4名 | [5名] |
| 25年度 | 新規利用者数  | 1名 | [0名] |
|      | 修 了 者 数 | 1名 | [1名] |
| 26年度 | 継 続 者 数 | 4名 | [4名] |

## 3. 利用者の状況

性別・年齢・等級・居住地区分

| 25年度 | 総数 | 40代 | 50代 | 60代 | 1級 | 2級 | 大阪市 | 大阪府 | 兵庫県 |
|------|----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 男 性  | 4名 | 0   | 2   | 2   | 2  | 2  | 1   | 1   | 2   |
| 女 性  | 0名 | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   |
| 合 計  | 4名 | 0   | 2   | 2   | 2  | 2  | 1   | 1   | 2   |

## 4. 月別施術状況

| 年月    | 施術数   |       | 利用者数 |      |
|-------|-------|-------|------|------|
|       | 25年度  | 24年度  | 25年  | 24年  |
| 25年4月 | 141   | 137   | 4    | 5    |
| 5月    | 122   | 151   | 4    | 5    |
| 6月    | 131   | 176   | 4    | 4    |
| 7月    | 138   | 148   | 4    | 4    |
| 8月    | 121   | 148   | 4    | 4    |
| 9月    | 119   | 152   | 4    | 4    |
| 10月   | 131   | 145   | 4    | 4    |
| 11月   | 125   | 135   | 4    | 4    |
| 12月   | 103   | 122   | 4    | 4    |
| 26年1月 | 102   | 120   | 4    | 4    |
| 2月    | 113   | 103   | 4    | 4    |
| 3月    | 110   | 135   | 4    | 4    |
| 合 計   | 1,456 | 1,672 | 48   | 50   |
| 月平均   | 121   | 139   | 4.00 | 4.17 |

## 5. 利用者支給額

|         |          |
|---------|----------|
| 月 別 平 均 | 108,938円 |
| 最 高 額   | 252,000円 |
| 最 低 額   | 0円       |

## F. 居宅支援センター てくてく

### 1. 事業の概要

#### (1) 障害者総合支援法関連事業

居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援を実施。

居宅介護は、年度当初比、利用者数37%増、提供時間数39%増。きらきら・わくわくと併用されている利用者が半数を超えている。利用内容は家事援助と通院等介助が大半を占め、身体介護は1名の利用にとどまった。

重度訪問介護は、利用者1名。1回あたりの利用時間数増加により、利用時間数は年度終盤に増加した。

同行援護は、年度当初比、利用者数22%増、提供時間数23%増。居宅介護同様、きらきら・わくわくとの併用利用者が半数を超えている。利用内容は、定期的な外出(散歩や買物など)と不規則の外出(行楽やイベント参加など)がほぼ半数ずつで、季節による利用量の変動が見られた。

移動支援は、同行援護への移行により年度当初比、利用者数・提供時間数とも半減。全身性障害者の利用はなかった。

#### (2) 介護保険法関連事業

訪問介護・介護予防訪問介護・居宅介護支援・介護予防支援を実施。

訪問介護は、年度当初比、利用者数17%減、提供時間数51%減。利用者の死去や、居宅以外での生活への移行などにより減少した。

介護予防訪問介護は、年度当初比、利用者数15%減、提供時間数はほぼ増減なし。

居宅介護支援は、年度当初比、利用者数37%減。利用者の死去や、居宅以外での生活への移行、介護度の軽度化による介護予防支援への移行があり、減少した。

介護予防支援は、年度当初比、利用者数25%増となった。

### 2. 利用の概況([ ]内は前年度)

#### (1) 実利用者数

|          | 利用者実人数  |
|----------|---------|
| 平成25年 4月 | 51 [45] |
| 5月       | 52 [47] |
| 6月       | 53 [48] |
| 7月       | 53 [48] |
| 8月       | 53 [50] |
| 9月       | 53 [50] |
| 10月      | 53 [50] |
| 11月      | 53 [49] |
| 12月      | 55 [51] |
| 平成26年 1月 | 55 [51] |
| 2月       | 55 [51] |
| 3月       | 55 [51] |

#### (2) 登録ヘルパー数

|          | 登録ヘルパー  |
|----------|---------|
| 平成25年 4月 | 58 [39] |
| 5月       | 58 [41] |
| 6月       | 58 [40] |
| 7月       | 53 [40] |
| 8月       | 52 [45] |
| 9月       | 55 [45] |
| 10月      | 56 [45] |
| 11月      | 57 [50] |
| 12月      | 57 [51] |
| 平成26年 1月 | 56 [51] |
| 2月       | 56 [53] |
| 3月       | 57 [55] |

(3) 障害者総合支援法(利用者数と提供時間数)

| 利用者数     | 居宅介護      | 重度訪問介護  | 同行援護      | 移動支援    |
|----------|-----------|---------|-----------|---------|
| 平成25年 4月 | 16 [ 12]  | 1 [ 2]  | 37 [ 22]  | 2 [ 7]  |
| 5月       | 17 [ 15]  | 1 [ 2]  | 38 [ 23]  | 2 [ 8]  |
| 6月       | 17 [ 15]  | 1 [ 2]  | 40 [ 24]  | 2 [ 7]  |
| 7月       | 17 [ 13]  | 1 [ 2]  | 40 [ 26]  | 2 [ 6]  |
| 8月       | 18 [ 13]  | 1 [ 3]  | 40 [ 32]  | 2 [ 4]  |
| 9月       | 18 [ 13]  | 1 [ 3]  | 40 [ 32]  | 2 [ 4]  |
| 10月      | 20 [ 13]  | 1 [ 2]  | 42 [ 33]  | 2 [ 4]  |
| 11月      | 20 [ 13]  | 1 [ 1]  | 42 [ 34]  | 2 [ 3]  |
| 12月      | 20 [ 13]  | 1 [ 1]  | 43 [ 36]  | 2 [ 3]  |
| 平成26年 1月 | 21 [ 15]  | 1 [ 1]  | 44 [ 36]  | 2 [ 3]  |
| 2月       | 21 [ 16]  | 1 [ 1]  | 44 [ 37]  | 2 [ 2]  |
| 3月       | 22 [ 16]  | 1 [ 1]  | 45 [ 37]  | 1 [ 2]  |
| 合 計      | 227 [167] | 12 [21] | 495 [372] | 23 [53] |

| 提供時間数    | 居宅介護           | 重度訪問介護    | 同行援護           | 移動支援      |
|----------|----------------|-----------|----------------|-----------|
| 平成25年 4月 | 158 [ 92]      | 23 [ 47]  | 569 [ 249]     | 27 [ 47]  |
| 5月       | 175 [ 130]     | 21 [ 33]  | 572 [ 317]     | 24 [130]  |
| 6月       | 181 [ 149]     | 29 [ 28]  | 575 [ 320]     | 24 [119]  |
| 7月       | 195 [ 120]     | 29 [ 26]  | 528 [ 435]     | 26 [ 64]  |
| 8月       | 189 [ 109]     | 20 [ 21]  | 497 [ 425]     | 21 [ 46]  |
| 9月       | 160 [ 112]     | 26 [ 41]  | 581 [ 406]     | 22 [ 62]  |
| 10月      | 185 [ 128]     | 35 [ 27]  | 596 [ 511]     | 31 [ 22]  |
| 11月      | 184 [ 123]     | 41 [ 18]  | 610 [ 506]     | 27 [ 25]  |
| 12月      | 212 [ 130]     | 24 [ 29]  | 616 [ 620]     | 18 [ 23]  |
| 平成26年 1月 | 209 [ 147]     | 31 [ 23]  | 469 [ 427]     | 23 [ 21]  |
| 2月       | 217 [ 154]     | 35 [ 13]  | 556 [ 507]     | 14 [ 26]  |
| 3月       | 220 [ 164]     | 38 [ 31]  | 699 [ 516]     | 15 [ 25]  |
| 合 計      | 2,285 [ 1,158] | 352 [337] | 6,868 [ 5,239] | 272 [610] |

(4) 介護保険法(利用者数と提供時間数)

| 利用者数     | 訪問介護   | 介護予防訪問介護 | 居宅介護支援 | 介護予防支援 |
|----------|--------|----------|--------|--------|
| 平成25年 4月 | 6 [ 6] | 7 [ 7]   | 8 [ 7] | 4 [ 3] |
| 5月       | 6 [ 6] | 7 [ 7]   | 8 [ 8] | 4 [ 3] |
| 6月       | 6 [ 7] | 6 [ 6]   | 8 [ 8] | 4 [ 3] |

|          |         |         |         |         |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 7月       | 6 [ 7]  | 6 [ 6]  | 8 [ 7]  | 5 [ 3]  |
| 8月       | 6 [ 7]  | 6 [ 5]  | 8 [ 8]  | 5 [ 3]  |
| 9月       | 5 [ 7]  | 6 [ 6]  | 8 [ 8]  | 5 [ 3]  |
| 10月      | 5 [ 7]  | 5 [ 6]  | 7 [ 8]  | 4 [ 3]  |
| 11月      | 5 [ 6]  | 5 [ 6]  | 7 [ 8]  | 4 [ 3]  |
| 12月      | 6 [ 6]  | 5 [ 7]  | 7 [ 8]  | 4 [ 4]  |
| 平成26年 1月 | 5 [ 6]  | 6 [ 7]  | 5 [ 8]  | 5 [ 4]  |
| 2月       | 5 [ 6]  | 6 [ 7]  | 5 [ 8]  | 5 [ 4]  |
| 3月       | 5 [ 6]  | 6 [ 7]  | 5 [ 8]  | 5 [ 4]  |
| 合 計      | 66 [77] | 71 [77] | 84 [94] | 54 [40] |

| 提供時間数    | 訪問介護          | 介護予防訪問介護  |
|----------|---------------|-----------|
| 平成25年 4月 | 161 [166]     | 58 [ 43]  |
| 5月       | 164 [172]     | 56 [ 51]  |
| 6月       | 169 [172]     | 52 [ 49]  |
| 7月       | 165 [168]     | 66 [ 45]  |
| 8月       | 171 [170]     | 56 [ 46]  |
| 9月       | 105 [144]     | 49 [ 48]  |
| 10月      | 97 [173]      | 59 [ 57]  |
| 11月      | 95 [153]      | 50 [ 53]  |
| 12月      | 101 [163]     | 47 [ 47]  |
| 平成26年 1月 | 85 [161]      | 60 [ 46]  |
| 2月       | 77 [145]      | 59 [ 51]  |
| 3月       | 78 [152]      | 54 [ 48]  |
| 合 計      | 1,468 [1,939] | 666 [584] |

### 3. 職員の研修

- (1) 内部研修 登録ヘルパーを対象に内部研修を2回実施した。
  - ・25年7月 「認知症になっても安心して暮らしたい」 12名参加
  - ・26年1月 「利用者のプライバシー・個人情報の取り扱い」 17名参加
- (2) 外部研修
  - ・鶴見区内の各種事業者連絡会主催研修に参加した。内容：口腔ケア・事例検討・虐待防止・福祉避難所の現状と課題。
  - ・大阪府や各種外部団体主催研修を受講した。内容：大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修、在宅支援におけるターミナルケア、介護・医療の連携など。
- (3) 資格取得
  - ・介護支援専門員資格更新に必要な専門研修課程Ⅰを1名が受講し、修了した。

- ・要介護認定調査員研修を1名が受講し、研修修了者が3名となった。
- ・業務知識の深化のため、1名が介護福祉士資格を取得した。

#### 4. 運営上の課題

##### (1) ヘルパーの確保

ヘルパーにより異なる勤務可能日や時間帯と、サービス提供とを繋げる調整に手間を要する。また、急な予定変更への対応をスムーズにするためにも、常勤もしくは常勤に近い形態で勤務できるヘルパーの確保が必要である。

##### (2) 介護保険法関連事業の拡充

年度を通じて利用者が減少傾向にあった。地域包括支援センターや事業者連絡会などとの連携を深め、新規利用者へのサービス提供を積極的に行う必要がある。

##### (3) 相談支援事業の再開

平成25年3月に廃止した相談支援事業の平成26年度中の再開に向け、準備を進める。『再開』とはいえ、対象者の拡大や事業運営の手順など、前回実施時とは異なる点が多くあるので、新規事業開始と同等の準備を重ねる必要がある。

## G. 養成部

視覚障害生活訓練等指導者養成課程、在宅訓練、図書の刊行等を行った。

### 1. 視覚障害生活訓練等指導者養成課程

(厚生労働省委託 第43期-1年、第42期4月生-2年、第42期10月生-2年)

視覚障害リハビリテーションに関する知識および生活訓練(歩行、コミュニケーション、日常生活動作等)等指導者として必要な知識・指導技術等を学習することを目的として指導者の養成を行った。

#### (1) 実施期間：

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 1年基礎Ⅰ      | ：平成25年4月9日(火)～10月4日(金)       |
| 1年基礎Ⅱ      | ：平成25年10月7日(月)～平成26年3月19日(水) |
| 2年実習(4月生)  | ：平成25年4月1日(月)～10月3日(木)       |
| 2年応用(4月生)  | ：平成25年10月7日(月)～平成26年3月19日(水) |
| 2年実習(10月生) | ：平成25年10月7日(月)～平成26年3月17日(月) |

#### (2) 受講生数：

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 1年基礎Ⅰ      | ：9名(男性7名、女性2名)　うち基礎Ⅰのみの修了者7名 |
| 1年基礎Ⅱ      | ：2名(女性2名)                    |
| 2年実習(4月生)  | ：5名(男性1名、女性4名)               |
| 2年応用(4月生)  | ：5名(男性1名、女性4名)               |
| 2年実習(10月生) | ：1名(男性1名)                    |

#### (3) 実施内容：

- 1年基礎Ⅰ－視覚障害リハビリテーションの基礎A、生活訓練(歩行訓練の指導法)等
- 1年基礎Ⅱ－視覚障害リハビリテーションの基礎B、生活訓練(コミュニケーション訓練・日常生活動作訓練・スポーツ訓練・弱視者訓練等の指導法)等
- 2年実習－施設実習
- 2年応用－視覚障害リハビリテーションの応用、施設見学・実習、卒業論文

## 2. 教育関係者視覚障害リハビリテーション研修会(教育第21期、略称：教育研修)

文部科学省・全国盲学校長会後援により、教育関係者(視覚支援学校教員等)を対象に、視覚障害リハビリテーションの全容を概括し、歩行、コミュニケーション、日常生活動作等の生活訓練の指導技術を学習することを目的として実施した。

(1) 実施期間：平成25年4月9日(火)～10月4日(金)

(2) 受講生数：4名(男性3名、女性1名)

(3) 実施内容：指導者養成1年基礎Ⅰにほぼ同じ

## 3. 在宅訓練

下記自治体の委託により、在宅視覚障害者に生活訓練を実施した。

(1) 大阪府堺市：合計288回(歩行、コミュニケーション、日常生活動作ほか)

(2) 奈良県：合計 98回(歩行、コミュニケーション、日常生活動作ほか)

(3) 和歌山県：合計293回(歩行、コミュニケーション、日常生活動作ほか)

(4) 兵庫県宝塚市：合計 99回(歩行、コミュニケーション、日常生活動作ほか)

## 4. その他

(1) 医療関係者視覚障害リハビリテーション研修会(略称：医療研修)

社団法人日本眼科医会との共催、社団法人大阪府眼科医会・奈良県眼科医会・和歌山県眼科医会の後援により、医療関係者に対する視覚障害リハビリテーションの研修会を実施した。

実施期間：平成25年9月24日(火)～26日(木)(受講者：8名)

(2) 視覚障害リハビリテーション基礎講習会(略称：基礎講習会)

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会の後援により、視覚障害等障害福祉関係機関・盲学校等教育機関・医療機関・研究機関等の職員等に対し、視覚障害リハビリテーションについての講習会を2回実施した。

実施期間：第1回 平成25年8月5日(月)～7日(水)(受講者：20名)

第2回 平成26年1月27日(月)～29日(水)(受講者：20名)

(3) 図書の刊行

「視覚障害リハビリテーション」は、安全交通試験研究センターより三宅文庫助成金を得て、第77号(13-6月号)、第78号(13-12月号)を刊行した。

(4) 関西視覚障害リハビリテーション研究会の開催

関西歩行訓練士会の事務局として、関西視覚障害リハビリテーション研究会を2回開催した。

開催日：第1回 平成25年7月6日(土)

第2回 平成25年12月7日(土)

## H. 相談室

### 1. 事業の概要

平成25年度、相談室へは、1年間に212件の電話相談、106件の来所相談があった。

電話による一次相談は、平日の9時～17時に実施し、相談者ニーズと、各種制度・サ

ービスとが適切に結びつけられるよう支援するとともに、必要に応じ来所での相談を促した。次に来所相談では、来談者の生活課題の明確化・焦点化を支援し、当センターの利用を希望された方々に対しては、十分なインフォームドコンセントの後、専門的な援助関係を契約した。また、必要に応じて他機関・施設等を紹介、他専門職とカンファレンスを開催するなどして、スムーズな支援移管を働きかけた。とくに昨今では、地域生活基盤の弱体化や家族機能の低下など、環境面に重層的で複雑な課題を抱えた来談者が多く、相談支援にあたっては、地域の支援者・専門職とのネットワークが不可欠となっている。

なお、施設利用予定者に関しては、入所申請書類の提出を受けて、それぞれの入所時期や支援方針などについて確認するため、入所調整会議を開催。さらに、利用開始後も、支援プロセスが円滑に展開してゆくよう、ケースワーク担当者との連携協力を心がけた。

このほか、社会福祉士養成のための施設実習や養成部の各種研修事業に協力し、大学・専門学校等からの講師派遣要請にも適宜対応、社会福祉士養成においては、相談室が施設実習受け入れの窓口を統括、実習前オリエンテーションを担当し、援助専門職者の養成教育・指導に取り組んだ。

加えて鶴見区や地域社協と連携し、地域自立支援協議会の運営や福祉教育プログラムの開発へも積極的に参画した。

以下に、平成25年度に実施した電話相談、および来所相談のデータを整理する。

## 2. 電話相談の状況

### (1) 年齢別区分

| 25年度 | 総数   | ～20 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～ | 不明 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 合 計  | 212名 | 7   | 18  | 27  | 25  | 28  | 17  | 21   | 69 |
| 24年度 | 248名 | 12  | 14  | 17  | 25  | 29  | 26  | 30   | 95 |

### (2) 地域別区分〔 〕内は前年度)

| 25年度 | 総数   | 大阪府・市 | 奈良県 | 兵庫県 | 京都府 | 滋賀県 | 和歌山県 |
|------|------|-------|-----|-----|-----|-----|------|
| 合 計  | 212名 | 120   | 8   | 20  | 5   | 1   | 2    |
| 24年度 | 248名 | 130   | 12  | 18  | 1   | 2   | 4    |

その他：56名[81名]

### (3) 相談者の内訳(ケースとの関係)

| 25年度 | 総数   | 本人  | 家族・知人 | 医療関係者 | 福祉関係者 | 教育関係者 | その他 | 不明 |
|------|------|-----|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 合 計  | 212名 | 89  | 46    | 14    | 51    | 1     | 9   | 2  |
| 24年度 | 248名 | 110 | 42    | 13    | 69    | 7     | 4   | 3  |

### (4) 相談内容別区分

| 25年度            | 件 数 | 24年度 |
|-----------------|-----|------|
| 生 活 ・ 介 護 相 談   | 69  | 40   |
| 就 労 相 談         | 7   | 15   |
| 福 祉 相 談 (年金・制度) | 0   | 1    |
| 医 療 相 談 (病気等)   | 2   | 3    |
| 教 育 相 談         | 1   | 3    |
| 補 助 具 相 談       | 3   | 11   |

|            |     |     |
|------------|-----|-----|
| ライトハウスについて | 76  | 114 |
| 盲人ホームについて  | 0   | 3   |
| 職業訓練について   | 33  | 43  |
| その他の       | 21  | 15  |
| 合 計        | 212 | 248 |

### 3. 来所相談の状況

#### (1) 年齢別区分

| 25年度 | 総数   | ～20 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～ | 不明 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 合 計  | 106名 | 6   | 22  | 17  | 22  | 18  | 12  | 7    | 2  |
| 24年度 | 119名 | 4   | 16  | 15  | 29  | 20  | 25  | 9    | 1  |

#### (2) 地域別区分

| 25年度 | 総 数  | 大阪市 | 大阪府 | 奈良県 | 兵庫県 | 京都府 | 滋賀県 | 和歌山県 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 合 計  | 106名 | 33  | 43  | 6   | 10  | 2   | 0   | 0    |
| 24年度 | 119名 | 44  | 39  | 11  | 12  | 1   | 1   | 2    |

その他：12名[ 9名]

## I. リハビリテーションセンター共通事業

### 1. 防災訓練

鶴見消防署の立会いによる防災訓練を年間2回実施した。

第1回・・・4月6日、日中想定避難訓練を実施した。利用者は、居室や利用中の部屋からの避難を実施したが、一部、職員の誘導の不備を利用者から指摘され、反省点が残った訓練となった。職員に関しては、消防署立会で火災探知機を作動させ役割分担等を確認した。また、職員に関しては水消火器による消火訓練を実施した。

第2回・・・10月25日、入所利用者の夜間想定避難訓練ならびに日中活動中の避難訓練を実施した。日中活動の利用者は、それぞれ担当職員が避難誘導、施設入所の利用者は、夜間を想定して居室よりの避難訓練を行った。

### 2. 「ライトハウス通信」

例年通り、修了者に対して年2回発行した。6月には木塚前理事長の退任の挨拶と新任所長挨拶などを掲載した。媒体として点字および大活字版に、メール版の3種類を作成した。

### 3. ロービジョン(弱視)相談

平成6年(1994年)より開始されたロービジョン相談を継続・維持し、予約制で一人に2時間程度の時間を確保し、相談に応じた。

### 4. ボランティア

視覚障害リハビリテーションセンターのボランティア登録数は、新規登録が10名、活動中止が5名、合計106名で昨年度とほぼ同数であった。活動数は年間延べ573名(ライトハウス祭り43名を含む)であった。

新たに企業ボランティア様(参天製薬様、三井住友銀行様)に、館内清掃(計3回)とライ

トハウス祭りにご協力いただいた。

『ボランティアだより』は、従来どおり年2回発行した(4月・1月)。なお、ボランティアの募集は、これまでもホームページで行ってきたが、センター周辺地域のボランティア獲得のため、榎本地区の掲示板に掲載した。

## 5. 他機関との連携

近隣福祉施設・機関と協力し、研修や実務の協力関係を保つように努めた。とくに介護事業については、法人として日本メディカル福祉専門学校と協定を結び、ヘルパー研修の講師派遣や研修会などの協同作業を行った。また、一般小・中学校、その他各種講習会・研修会、大学・専門学校等の専門講座等に講師派遣を行った。

# 情報文化センター

わが国では平成26年1月、国連障害者権利条約が公布され、視覚障害者をはじめ情報アクセスに困難のある人が、多様な媒体・手段を選んで情報を利用できる社会を作ることが定められた。しかし、こうした人々に対する社会の情報保障は、今なお不十分であるばかりか、情報化社会が進む中、むしろ格差は広がる一方である。

この現状に対して、当センターでは、全国で推計164万人(日本眼科医会、平成21年発表)に達する視覚障害者をはじめ、視覚障害以外の原因で読書に困難のある方などを対象に、東・西事業所と早川福祉会館点字図書室(大阪市より業務受託)が連携して、“学び、働き、暮らし、楽しむ”ことに役立つ情報を点字、録音、電子書籍等の多媒体で製作、提供。加えて西事業所では、情報利用に必須のICT(情報通信技術)とインターネット、視覚補助具の利用支援を推進したほか、地の利を活かして、文化・コミュニケーション活動の場を提供した。

また、西事業所では、中期計画3年間の2年目として、①専門技術を活かした蔵書製作とプライベート製作の推進、②サピエ図書館を柱にしたICTとインターネット利用の支援と普及、③マルチメディアデイジー図書と音声解説の普及、④先駆的サービスを維持するためのファンドレイジングの強化を目標とし、予定の成果を上げることができた。

さらに今年度は、東・西事業所が連携して「情報バリアフリー推進事業」に着手し、公共団体や企業に対して点字、録音、電子書籍、音声解説等の公的保障の拡大に取り組んだほか、文部科学省の委託により「音訳教材」の研究事業を実施し、関係者から高い評価を得た。

## A. ネットワーク事業(東事業所・西事業所)

視覚障害者の情報保障を全国規模で推進するため、各種ネットワーク(広域団体、およびネットワークシステム)の中核の役割を担い、その充実・発展に努めた。

### 1. 全国視覚障害者情報提供施設協会事務局

特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協、加盟98団体)の運営に協力し、副理事長を務め、事務局を提供するとともに、点訳と電子書籍委員会等に職員を派遣した。また、同協会が運営する視覚障害者情報提供ネットワークシステム・サピエ図書館のサポートセンターを引き続いて受託し、全国の個人会員12,476名(前年度11,205名)、施設会員271団体(同261団体)に対して、利用上の質問に電話やメールで回答した。

### 2. 日本盲人社会福祉施設協議会

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)点字出版部会(加盟26施設)の事務局を担当し、評議員を派遣するとともに、点字出版図書登録データベースの管理運用を行った。

### 3. 近畿視覚障害者情報サービス研究協議会

近畿視覚障害者情報サービス研究協議会(近畿視情協、加盟44施設)の事務局を担当するとともに、委員会活動や専門音訳チームの活動を支援した。また「点字・録音図書目録

(NLB)」を毎月発行し、加盟館に送付した。

#### 4. 日本点字委員会

委員を派遣し、国内の点字表記法の普及に寄与した。

#### 5. 近畿点字研究会

事務局を預かり、点字表記法の統一、整備、普及に向けた研究活動を推進した。

### B. サービス部(西事業所)

#### 1. 図書・情報サービス

大阪市・府を中心に全国の視覚障害者をはじめ読書に困難のある方々に対して、図書・雑誌をはじめとする文書情報の利用を支援するため、点字・録音図書の貸出、対面リーディング、プライベート製作サービスなどを行った。

##### ①利用者登録(単位：名、[ ]内は前年度)

近年、病気や高齢化により視覚障害になる方が増えるとともに、西事業所の利用登録者も増え続けており、前年度比53名増の4,576名に達した。

| 地域別   | 新規登録     | 登録抹消    | 登録合計          |
|-------|----------|---------|---------------|
| 大 阪 市 | 27 [ 36] | 6 [ 6]  | 1,775 [1,754] |
| 大 阪 府 | 36 [ 37] | 7 [14]  | 1,552 [1,523] |
| そ の 他 | 7 [ 3]   | 4 [ 5]  | 1,249 [1,246] |
| 合 計   | 70 [ 76] | 17 [25] | 4,576 [4,523] |

##### ②貸出サービス([ ]内は前年度)

貸出種別では、点字図書と、5年前に製作を終了したテープ図書の貸出が漸減しているが、デイジー図書は増加の一途を辿り、貸出総数は前年度比9%増の60,399点に達した。

| 種 別           | 貸出冊(巻/枚)数          | 内 訳 |                   |
|---------------|--------------------|-----|-------------------|
| 点 字 図 書       | 5,107冊 [ 6,570冊]   |     |                   |
| デ イ ジ ー 図 書   | 49,854枚 [ 43,382枚] | 図 書 | 39,746 [ 33,114枚] |
|               |                    | 雑 誌 | 10,108 [ 10,268枚] |
| テ ー プ 図 書     | 5,430巻 [ 5,460巻]   | 図 書 | 4,770 [ 4,479巻]   |
|               |                    | 雑 誌 | 660 [ 981巻]       |
| フ ロ ッ ピ ー 図 書 | 8枚 [ 1枚]           |     |                   |
| 合 計           | 60,399 [ 55,413 ]  |     |                   |
| 閲 覧 者 数       | 124名 [ 131名]       |     |                   |

##### ③館間貸借([ ]内は前年度)

全国の点字図書館や公共図書館等との相互貸借は伸び続けており、とくに貸出は、点字図書が前年度比12%増、デイジー図書が同22%増、合計でも10%増の19,072冊(巻)を記録した。

| 種 別           | 貸 出 数             | 借 受 数             |
|---------------|-------------------|-------------------|
| 点 字 図 書       | 4,104冊 [ 3,656冊]  | 1,787冊 [ 1,453冊]  |
| デ イ ジ ー 図 書   | 12,989枚 [10,687枚] | 12,787枚 [ 8,310枚] |
| テ ー プ 図 書     | 1,979巻 [ 2,996巻]  | 4,725巻 [ 4,623巻]  |
| フ ロ ッ ピ ー 図 書 | 0枚 [ 0枚]          | 0枚 [ 0枚]          |

|     |                    |                    |
|-----|--------------------|--------------------|
| 合 計 | 19, 072 [17, 339 ] | 19, 299 [14, 386 ] |
|-----|--------------------|--------------------|

④対面リーディングサービス([ ]内は前年度)

西事業所の対面リーディングスタジオで、153名のボランティアにより1回2時間の読み書きサービスを提供。西事業所の特徴である、交通の便の良さとサービス範囲の広さ(読む書類の制限が緩い、1日6時間までの利用が可能、代筆も行うなど)が好評を得て、例年に引き続き年間1,000件を超えるサービスを提供した。

| 内 容      | 件 数             | 延べ時間数           |
|----------|-----------------|-----------------|
| 対面リーディング | 1, 083 [1, 149] | 2, 166 [2, 298] |

⑤プライベート製作サービス等([ ]内は前年度)

大阪府・市の利用者と関西の学生の依頼に応じて、図書等の点訳、録音、テキストデータ化サービスを行った。引き続いてプライベート製作サービスにてこ入れした結果、3媒体すべてにおいて前年度を上回る実績を記録した。

| サービス内容      | 点 字      | 音 声       | テキストデータ  |
|-------------|----------|-----------|----------|
| プライベート製作    | 72 [ 64] | 111 [ 95] | 45 [ 33] |
| 点 字 データ 印 刷 | 3 [ 13]  |           |          |
| デ イ ジー 編 集  |          | 9 [ 6]    |          |
| 合 計         | 75 [ 77] | 120 [101] | 45 [ 33] |

⑥レファレンスサービス

西事業所の新刊情報と視覚障害者に役立つ情報を独自編集した『読書』を年間11回、大きめの活字・点字・デイジー・電子メール・フロッピーディスク版で毎号2,000部発行し、大阪府・市の利用者に無償送付したほか、他府県の購読希望者に材料費相当(年間500円)で送付した。またサービス部の書庫に視覚障害関係資料を収集・所蔵し、閲覧に供したほか、電話や来館、電子メールにより、点字・録音図書に関する質問をはじめ、視覚障害の方が必要とするさまざまな情報を提供した。

## 2. 用具・機器サービス

西事業所5階のサービスフロアでは、視覚障害者用具・機器の展示・販売・利用支援(相談、手ほどき、操作指導)とインターネットの利用支援を中心に、対面リーディングサービスやプライベート製作サービスの対応など、サービス提供の窓口的役割を果たした。

サービスフロアへの来室者は、年間4,971名(前年度5,114名)。「パソコンQ&A」(パソコンや電子機器の操作・トラブルに関する無償の電話相談サービス)への問合せは、年間2,520件(前年度2,226件)に達したほか、パソコンサポートボランティア「ボイスネット」による訪問サポートも年間10件(前年度20件)行った。

このほか、最新機器等の情報交換の場として「ICTサロン」を毎月開催し、iPadやらくらくスマートホン、Windows8を取り上げたところ、全10回で181名の参加があった。

施設外では、西日本最大規模の視覚障害者福祉機器展「日本ライトハウス展2013」を10月5～6日、難波御堂筋ホールで開催。35社の出展を集め、注目のiPadの体験会も実施したところ、1,269名(前年度1,301名)の来場者があった。また4月18日～20日にインテックス大阪で開かれた「バリアフリー2013」で、「目の見えない方・見えにくい方のための展示コーナー」を主催。18社が出展、好評を博した。

## 3. インターネット利用支援サービス

図書データをはじめとする情報活用にインターネットの利用が欠かせないことから、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」の操作やトラブルへのサポートを中心に、インタ

ーネットの利用支援(利用相談、手ほどき、Q&A)に努めた。

#### ①サピエ図書館

全視情協からサピエ図書館サポートセンターを受託し、全国の利用者に対してサピエの使用上の質問・相談に応え、年間4,371件(前年度4,678件)のサポートを行った。

#### ②はやみみかわら版

西事業所独自のインターネット録音図書配信サービス「はやみみかわら版」(図書や雑誌の録音を未校正ながら録音当日に聴くことができるシステム)を運用し、166名(前年度167名)の利用に供した。

### 4. 地域サービス

西事業所では、地下鉄肥後橋駅の真上という地の利を活かして、文化とコミュニケーションの場を提供するイベント「わろう座」を開催。今、図書館界で注目の「びぶりおバトル」をはじめ、視覚障害者囲碁大会や外国の視覚障害者を招いての交流会、バリアフリー映画体験会(3回)など、全6回のイベントを開催し、視覚障害者ほか245名の参加者を集めた。

## C. 製作部(西事業所)

点字・録音等400名を超える製作ボランティアの協力により、大量で正確な点字・音声・マルチメディア等の情報製作を行った。

### 1. 点字製作係

#### ①蔵書製作〔 〕内は前年度)

140名のボランティアに自宅での点訳と来館による校正・編集にご尽力いただき、専門書・教科書を含め、例年どおり多数の点字図書を製作した。完成した点字データは、印刷・製本して貸出すとともに、「サピエ図書館」にアップロードし、全国に提供した。

| 種 別         |                   | タイトル数      | 冊 数        |
|-------------|-------------------|------------|------------|
| 蔵 書 製 作     |                   | 263 [ 271] | 946 [ 957] |
| 内 蔵 書 製 作 分 | 自 館 製 作 分         | 186 [ 197] | 752 [ 720] |
|             | 協 力 グ ル ー プ 製 作 分 | 77 [ 74]   | 194 [ 237] |

#### ②蔵書製作以外の受入れ〔 〕内は前年度)

| 種 別           | タイトル数      | 冊 数        |
|---------------|------------|------------|
| 厚生労働省委託配布図書   | 35 [ 40]   | 96 [ 100]  |
| 寄 贈 ・ 寄 託 図 書 | 11 [ 7]    | 30 [ 11]   |
| 購 入 図 書       | 5 [ 9]     | 6 [ 12]    |
| そ の 他         | 205 [ 188] | 720 [ 758] |
| 合 計           | 256 [ 244] | 852 [ 881] |

#### ③蔵書総数〔 〕内は前年度)

書庫は既にほぼ満杯状態のため、利用度の低いもの、データ化されていて再印刷が可能なものの整理・除籍を行い、図書回転率の高い書庫をめざした。

| 内 容       | タイトル数          | 冊 数             |
|-----------|----------------|-----------------|
| 累 計 蔵 書 数 | 9,585 [ 9,066] | 39,312 [37,344] |

#### ④プライベート製作〔 〕内は前年度)

蔵書製作と並行してプライベート製作の体制を整え、製作数がアップした。

| 内 容      | 件 数     | 枚 数               |
|----------|---------|-------------------|
| プライベート製作 | 72 [64] | 17, 376 [16, 251] |

## 2. 録音製作係

### ①蔵書製作〔 〕内は前年度)

265名のボランティアに音訳・校正・編集作業を行っていただき、自然・社会科学、外国語、東洋医学などの専門書や図表の多い本を中心に、多数のデージー録音図書を製作した。製作に当たっては、館内の録音スタジオと録音設備のほか、ボランティアの自宅のパソコンと西事業所をインターネット回線で結んだ録音編集システム「ウェブスタジオ・なにわ」(三菱財団助成事業)を活用した。完成図書はCDで貸出したほか、サピエ図書館を通して全国の利用者に提供した。

| 種 別         |         |  | タイトル数       |
|-------------|---------|--|-------------|
| 蔵 書 製 作     |         |  | 202 [ 229]  |
| 内           | デ イ ジ ー |  | 202 [ 229]  |
| 訳 内、厚生労働省委託 |         |  | * 21 [* 18] |

\*印は、製作タイトルが重複しているため、合計数に合算しない。

### ②蔵書製作以外の受入れ〔 〕内は前年度)

<デージー図書>

| 種 別           |   |   | タイトル数     |
|---------------|---|---|-----------|
| 寄 贈 ・ 寄 託 図 書 |   |   | 23 [ 22]  |
| 購 入 図 書       |   |   | 8 [ 6]    |
| 厚生労働省委託配布図書   |   |   | 25 [ 28]  |
| D             | V | D | 0 [ 0]    |
| そ の 他         |   |   | 378 [306] |
| 合 計           |   |   | 434 [362] |

\*「その他」には、シネマ・デージー図書34タイトルを含む。

### ③蔵書総数〔 〕内は前年度)

書庫は既にほぼ満杯状態のため、利用度が低く、かつ必要に応じてすぐサピエ図書館からCDコピーできるものを中心に整理・除籍を行い、図書回転率の高い書庫をめざした。

| 内 容       | タイトル数             | 巻 数               |
|-----------|-------------------|-------------------|
| 累 計 蔵 書 数 | 14, 643 [15, 610] | 44, 563 [47, 157] |

### ④プライベート製作〔 〕内は前年度)

プライベート製作の体制を整え、製作期間の短縮に努めた結果、製作数がアップした。

| 内 容      | 件 数       | 巻 数       |
|----------|-----------|-----------|
| プライベート製作 | 111 [ 95] | 111 [ 95] |

## D. 教科用図書製作・供給事業(東事業所)

全国の特別支援学校(盲学校)で使用される点字・拡大・デージー版の教科用図書を安定的に発行した。主なものは、以下のとおり。

### ①特別支援学校用小学部、中学部、高等部普通科等点字教科書

小学部15点24巻、中学部9点33巻、高等部普通科35点254巻を製作し、全国の特別支援学校等に安定的に供給した。

高等部普通科は、「新編現代文B」「古典文学選 古典A」「新世界史」「最新政治・経済」「高校生の音楽2」「CROWN English Communication II」「SELECT English Conversation」を新版発行した。

## ②理療科教科書

19点76巻を製作し、安定的に供給した。

「基礎保健理療II」を新版発行した。

## E. 多部数複製利用点字データ製作・供給事業(東事業所)

### 1. 教材データの製作

視覚障害児童・生徒・学生が必要とする教材を選択・編集して点字データの製作を行った。

高等部普通科は、「新編現代文B」「古典文学選 古典A」「新世界史」「最新政治・経済」「高校生の音楽2」「CROWN English Communication II」「SELECT English Conversation」を新版発行した。

理療科は、「基礎保健理療II」を新版発行した。

点字版教科書の製作は、墨字版が図表・写真を多用しているところを点字でいかに読みやすく編集するかに高度な技術を要する。近年各科目とも原本のページ数が増え、しかも多数の図版を含むことから、点字版の巻数も増加している(例えば世界史の教科書は旧版全10巻が新版全14巻)。質・量ともに高度な作業に対応するため、作業体制の工夫、職員の技能向上に努力している。

### 2. 広報誌の発行

大阪市、和歌山市等の行政機関より自治体広報誌の製作委託を受け、触読に配慮した編集を行って、製作・配布した。

### 3. 各種委託製作

当センターが考案し、国内で初めて実施された関西電力等の公共料金通知サービス業務を引き続き受託するとともに、適切な点字の表示等の普及に留意しながら、行政・教育機関、および諸団体からの委託により、点字印刷・点訳物、点字サイン(プレート類)等の製作を行った。

主な製作物は次のとおり。

大阪市「介護保険制度パンフレット」「大阪府・大阪市特別区設置協議会だより」「大阪市会だより」「わたしたちの水道」、関西電力「供給約款以外の供給条件」、日本盲人福祉委員会選挙プロジェクト「点字毎日号外参議院比例代表選出議員選挙のお知らせ」ほか、国会図書館関西館「録音図書目録」、ユー・エス・ジェイ「点字ガイドマップ」、平等院「鳳凰堂修理特別展冊子」、各種家電製品取扱説明書、点字名刺、券売機点字テープ、点字運賃表、点字行先案内プレートほか

### 4. 点字編集・自動製版システム「WinBred10」の外部供与

WindowsXPまたWindows7をオペレーティングシステムとするパソコン上で動作し、仲村点字器製作所の点字製版機による点字製版を行うソフトウェアを開発し、他施設にも供与を開始した。

## 5. 三次元切削装置を用いた触察模型製作の研究

デザインのための専用ソフトウェアを開発して、水面波の干渉の様子を表すコマ送り模型(13枚セット)を試作。視覚特別支援学校教員等より高い評価をいただいた。

## 6. 日本漢点字協会の業務

日本漢点字協会の依頼を受けて、パソコンと点字プリンタを使い、漢点字図書の印刷・製本・発送作業を行うとともに、経理事務の支援を行った。

# F. メディア製作センター事業(東事業所・西事業所)

## 1. 点字関連事業

西事業所において、視覚障害の生徒・学生が一般校で教育を受けられる環境を支援するため、関西の小・中学校、大学の依頼に応じて、小学校9校37件、中学校5校30件、大学5校70件の教科書・教材を点訳、提供した。また自治体や公共団体など39団体67件の資料を点訳・墨字訳した。

## 2. 録音関連事業

国立国会図書館による「学術文献録音図書製作作業」を引き続き受託し、専門図書36タイトル(946時間)分のデイジー図書製作を行った。

盲学校理療科教科書は、「基礎保健理療Ⅱ(保健理療理論)改訂版」のデイジー版を製作、「新版経絡経穴概論」デイジー版を部分修正し発行した。

「参議院議員選挙」については、比例区のデイジー版マスター、カセットテープ版マスターを作成し、日本盲人福祉委員会音声版選挙プロジェクトへの提供を行うと同時に、埼玉県分の92枚のデイジー版CD複製と92本のテープ複製を行った。また、山形県・埼玉県・栃木県・兵庫県選挙区のカセットテープ版作成と約1,600本のテープ複製、栃木県・埼玉県選挙区のデイジー版作成と約630枚のCD複製を行った。

また、官公庁や民間企業から委託を受け、カセットテープとデイジーCDによる録音・編集・出版を行った。主な編集製作物は次のとおり。

大阪市政策企画室「くらしの便利帳」(24区)、大阪市福祉局「障がいがある方のための福祉のあらまし」、国立民族学博物館「月刊みんぱく」、青年の自立支援センターゆう「サービス利用契約重要事項説明書」「サービス利用契約書」「個人情報使用同意書」ほか。

この他、各自治体・団体主催の音訳ボランティア講習会等へ講師派遣を行った。

＊ 音訳講習会講師派遣：11箇所

茨木市、岸和田市、熊取町、高知県高知市、泉南市、高槻市、田尻町、八幡市、大阪府視覚障害者福祉協会、大阪市天王寺区社会福祉協議会、読売光と愛の事業団

## 3. マルチメディアデイジー事業

パソコン上で文字や画像と音声とを同期させ、さまざまな読み方をさせることのできるマルチメディアデイジーの製作を51名のボランティアにより行い、視覚障害のみならず、ディスレクシア(文字の認識・理解が困難な障害者)、知的障害など、“読書障害”の方々への情報提供に取り組んだ。とくに高校生の教科書製作や就労関係の書籍の製作に継続して取り組んだほか、アクセシブルな電子書籍であるテキストデイジーも製作し、完成作品はサピエ図書館にアップロードした。

また今年度、平成25年度文部科学省「民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業」を受託し、人の声による「音訳教材」の有用性を実証。年度末に、その成果発表会

「マルチメディアデイジー図書・教科書体験活用講座」を開いたところ、全国から教育関係者など94名の参加があり、高い評価を得た。

今年度の製作状況は、以下のとおり。

(マルチメディアデイジー)

＊教科書 「小学校社会」上・下巻(教育出版、3・4年、5年、6年)、「わくわく理科5」(啓林館、5年)、「みんなと学ぶ小学校国語」上・下巻(学校図書、6年)、「高等学校国語総合」(明治書院)、「高等学校古典」(明治書院)、「高等学校物理基礎」(数研出版)、「高等学校化学」(啓林館)、「高等学校生物」(第一学習社)、「高等学校英語」(三省堂)など、17タイトル

＊絵本・一般書 10タイトル

(テキストデイジー)

＊専門書籍 17タイトル

＊テキストデータ製作(プライベート依頼) 44タイトル

このほか、製作者(ボランティア)養成事業として、「マルチメディアデイジー校正講習会」(全3回)、「教員向けマルチメディアデイジー製作講習」(全1回)を行ったほか、外部団体向け啓発事業(研修会・講習会)として、西宮市教育委員会、神奈川県ライトセンター、近畿視情協サービス研究協議会、全国視覚障害者情報提供施設協会、視覚障害教育研究会、高知点字図書館など、7施設・団体に出張指導を行った。

#### 4. 音声解説事業

視覚障害者が晴眼者と等しくテレビや映画を視聴し、情報を共有できる環境を整備するため、テレビ番組・映画・演劇に音声解説を付与する事業の拡大に努めた。

テレビでは、NHKのEテレ「バリバラ」の音声解説を受託し、年間31作品を製作した。

映画では、音声だけで映画を楽しむことのできる新しいメディア「シネマ・デイジー」の製作(年間34タイトルを製作)、貸出、配信を開始したところ、全国で爆発的なヒットを記録した。

映画会では、バリアフリー映画会「南極料理人」を主催。原作者によるトークショーも合わせて行ったところ、視覚障害者等200名余りの来場を得た。また西事業所のイベント「わろう座」での映画体験会(3回)、他団体との共同企画による上映会、中央区地域アクションプランによる4年連続となる上映会などを開催した。

また音声解説の技術向上のため、音声解説ボランティアグループ「ボイスぷらす」(22名)による定例勉強会を実施。さらに、バリアフリー映画情報を約250名の登録者にメールリングリスト形式で配信した。

## G. 厚生労働省委託視覚障害者用図書事業(東事業所・西事業所)

「視覚障害者用図書事業」の規定に基づき、以下のとおり点字・録音図書の製作・提供を行った。

### 1. 点字図書

「図書選定委員会」を設置し、視覚障害者・児の知識・教養・学習等の向上に資する図書を広範な分野から選定。デジタルデータで製作し、製版によるもの28タイトル・70巻・5,040冊、CDによるもの6タイトル・432枚の貸出を行った。同時に一部触図入りの図書等を除き、「サピエ図書館」への点字データのアップロードを行った。

### 2. 録音図書

点字図書と同じく、上記規定に基づき、有識者で構成される「図書選定委員会」の意見を十分に考慮したうえで選書を行い、他施設で製作が困難な長編シリーズ作品、学術文献、辞書などのデイジー図書を21タイトル製作し、指定施設への貸出を行うと同時に、「サピエ図書館」へのデイジーデータのアップロードを行った。

## H. ボランティア・広報支援事業等(西事業所)

### 1. 総務

- (1) 製薬会社の委託により視覚障害者向けのホームページと情報誌の製作を監修したほか、家電メーカーのバリアフリー製品の広報に協力した。また当館の事業への支援を呼びかけた結果、支援者のご遺族から高額の寄附を受領し、当館のサービスを支える設備の全面的な更新を図ることができた。
- (2) 晴眼職員と視覚障害職員が共用できる当館独自の図書館管理システムILIS(アイリス)の自主開発を進め、ベータ版の完成にこぎ着けた。

### 2. ボランティア友の会

西事業所のボランティア650名で作るボランティア友の会との協力関係を深めるため、世話人会(10名)を選任し、2か月に1回、意見交換を行った。また、友の会主催の行事として、ガイド体験会(参加16名)と、施設見学会(養護盲老人ホーム「慈母園」と壺阪寺、参加39名)、ボランティア交流会・総会(参加125名)を開催した。

### 3. 講習会・研修会の実施

- ①点訳：点訳技術講習会(全20回、修了8名)、校正勉強会(全4回、受講25名)、楽譜点訳勉強会(全24回、受講10名)、近畿点字研究会(隔月)
- ②音訳：初心者講習会(年2期・各12回、修了18名)、読み方勉強会(年2期・各12回、修了25名)、音訳フォローアップ講座(通年11回、受講延べ101名)
- ③マルチメディアデイジー：校正フォローアップ講習会(全1回、修了2名)、製作講習会(全2回、修了7名)、校正講習会(全2日、修了11名)
- ④その他：第16回視覚障害者ICTサポート・ボランティア講習会(毎日新聞大阪社会事業団との共催：修了24名)
- ⑤第26回専門点訳・音訳講習会(毎日新聞大阪社会事業団との共催)：専門点訳・試験問題(中学用)コース(全5回、修了22名)、専門音訳・図表コース(全6回、修了10名)、同音声解説コース(全6回、修了21名)、同音声表現技術コース・基礎編(2日間、修了83名)、同会話文の読み方編(3日間、修了30名)

### 4. 広報事業

ボランティア向け情報誌『ONE BOOK ONE LIFE』(墨字版1,100部、点字版10部ほか)を年11回発行したほか、専門情報誌『ろくおん通信』(500部、隔月刊)、『点訳通信』(220部、年4回)、『対面リーディング通信』(240部、隔月刊)を発行、配布した。

### 5. 施設の地域開放

ボランティア志望者や一般市民を対象に、西事業所の事業と視覚障害者の情報環境について理解を深めていただくために、毎月1回オープンデイ(見学日)を開催し、合計37名が参加、ほか、85名に案内説明を行った。また、グループ・団体の依頼に応え、合計27団体463名に西事業所を見学していただいた。このほか、4階の会議室を地域

の視覚障害者等に貸出し、囲碁、短歌、パソコン、障害者同士の交流会や勉強会など、多彩な活動が行われたほか、関係団体・グループにも貸出しを行った。

## 6. 地域との協力

地域福祉の振興のため、主に以下の3団体の事業に協力した。

あおぞら財団：視覚障害者に向けたタンDEM自転車の普及・啓発活動に協力した。

西区社会福祉協議会：西区障がい者・児ネットワーク「そよかぜ」に参加し、地域交流イベント「そよかぜまつり」等の開催に協力した。

中央区社会福祉協議会：障害者福祉部会「HANDSちゅうおう」に参加し、中央区バリアフリー上映会の企画・製作に協力した。

## 7. 国際協力

公益財団法人ダスキン愛の輪基金のダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に協力し、フィリピンとインドネシアの視覚障害青年2名に4週間の研修を行った。また、姉妹施設である韓国のシロアム視覚障害者福祉会に職員3名を研修派遣し、同会からも2回の見学を受け入れたほか、韓国の視覚障害者の見学3回(合計90名)を受け入れた。さらに、IFLA(国際図書館連盟)の「印刷物を読むことに障害がある人々への図書館サービス分科会」に参加し、国際協力を進めた。

# 1. 大阪市委託・早川福祉会館点字図書室

平成22年度より大阪市の業務委託を受け、大阪市立早川福祉会館点字図書室(大阪市東住吉区、利用登録者1,025名[前年度1,003名])の運営を継続して行った。

今年度は委託契約の最終年度だったが、テープ利用者へデイジー再生機の貸出やサポートを行い、デイジーへの移行を進めた。点訳ボランティアに対してエーデルの講習会を行い、プライベート点訳に役立てることができた。また、新たに2タイトルの雑誌点訳を始めた。音訳ボランティアに対しては、実践的な「校正について」の講習会を行い、円滑な蔵書製作が行えるように取り組んだ。受託最終年度にあたり、点字図書と録音図書の製作規準を見直し、現在の活動にあうものに改訂した。

### ①録音・点字図書製作実績 単位：タイトル

| 種 別     | 製作数        | 累計蔵書数          |
|---------|------------|----------------|
| デイジー図書  | 126 [ 124] | 4,195 [ 3,990] |
| テープ図書   | 96 [ 95]   | 5,277 [ 5,181] |
| 点 字 図 書 | 131 [ 132] | 1,712 [ 1,448] |

### ②録音・点字図書貸出実績 単位：タイトル

|           |                  |
|-----------|------------------|
| デイジー図書    | 40,029 [ 38,337] |
| テープ図書     | 6,992 [ 8,186]   |
| 点 訳       | 1,727 [ 1,807]   |
| 点 字 打 出 し | 1,959 [ 1,849]   |

### ③プライベートサービス実績 単位：件

|           |            |
|-----------|------------|
| デイジー図書    | 160 [ 238] |
| テープ図書     | 12 [ 15]   |
| 点 訳       | 166 [ 161] |
| 点 字 打 出 し | 293 [ 209] |

④対面読書事業実績

155件 [ 150件]

⑤その他のサービス

引き続き情報文化センターと連携し、利用者への機器の使用法の指導を随時行った。

⑥ボランティアグループ活動への協力

音訳ボランティア約210名、点訳ボランティア約170名の自主的な活動を支援し、環境や機器の整備、パソコン・機器の操作支援、製作上の助言、情報提供、事務作業等の協力を行った。